WinBook Pro

１００T（J３DX４／１００CX）
P９０T（J３P５４／９０CX）

ユーザーズガイド

SOTEC

重要なお知らせ

このユーザーズガイドに含まれる情報は、事前にお知らせすることなしに変更される場合があります。
本製品ならびにソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果の影響については、いっさい責任を負いかねますのでご了承ください。
本製品およびソフトウェアの仕様は予告なしに変更することがあります。

版権についてのお知らせ

神奈川県横浜市中区太田町4-55
横浜馬車道ビル

本ユーザーズガイドにおいて説明されている各ソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。ソフトウェアおよびそのマニュアルは、そのソフトウェアライセンス契約にもとづき同意書記載の管理責任者の管理のもとでのみ使用することができます。それ以外の場合は当該ソフトウェア供給会社の承諾なしに無断で使用することはできません。

WinBook Pro
100T（J3DX4/100CX）
P90T（J3P54/90CX）
ノートブック コンピュータ
ユーザーズガイド

はじめに

このたびは、ソーテックWinBook Proをお買い上げいただきまことにありがとうございました。
ソーテックWinBook Proは、高精細の800×600ドットワイド画面に加え、デスクトップコンピュータに匹敵する多機能をコンパクトなA4サイズで実現しています。
このユーザーズガイドでは、注意していただきたいことや基本的な使いかた、および、より有効に活用する方法を6つのセクションに分けて説明しています。
ソーテックWinBook Proを正しくお使いいただくためにも、必ずこのユーザーズガイドをお読みください。

株式会社ソーテック

WinBook Pro

本製品を正しくお使いいただくために

ご使用の前に取り扱い上の注意をよくお読みになり正しくお使いください。

⚠警告


水場使用禁止

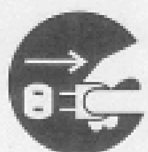
●洗い場、風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。



●絶対に分解したり修理・改造をしないでください。火災や感電の原因となります。修理は販売店にご相談ください。



●付属のACアダプタ以外は使用しないでください。火災・感電の原因となります。


電源プラグを抜く

●ACアダプタから何かこげるような匂いがしたり、表面がかなり熱いときは直ちに電源プラグを抜いてください。
そのままご使用になると火災・感電の原因となります。販売店にご相談ください。



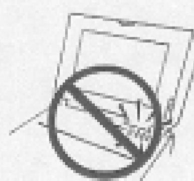
●電源が100-240Vの範囲内であることを確認して使用してください。100-240Vを超える電源を使用すると火災・感電の原因となります。

●付属のバッテリ以外は使用しないでください。また、付属のバッテリを本製品以外に使用しないでください。火災・感電の原因になります。

お願い



●液晶ディスプレイは先の尖ったものでたたいたり、引っかいたりしないでください。



●ハードディスクやフロッピーディスクが動作中のときは、移動させないでください。

●本製品にインストールされているMS-DOSやMS Windows、MS Works、および各種ユーティリティソフトをお使いになる前に、必ずバックアップをおとりください。(➔ 104ページ)
●ハードディスクに保存したデータなどは、定期的にバックアップをおとりください。
●本体底面のファームウェアカバーは絶対に開けないでください。修理は販売店にご相談ください。

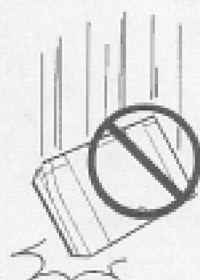
⚠ 注意



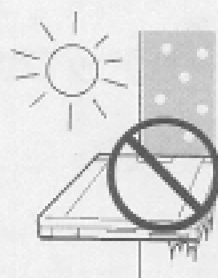
● ACアダプタの電源プラグを抜くときはコードを持たず、必ずプラグ部分を持って抜いてください。



● 使用時以外は電源プラグをコンセントから抜いてください。漏電・火災の原因となります。



● 落としたり強い衝撃を与えないでください。また、重い物をのせないでください。故障による火災・感電の原因となります。



●熱の発生源の近く、直射日光のあたるところ、腐蝕性ガスのある環境、ほこりの多いところ、使用周囲温度(10〜30℃)/使用周囲湿度(20〜80%)を超える範囲では使用・保存しないでください。



●バッテリは火中に投じたり、加熱・分解・ショート(+と-の端子を針金などで接続させること)はしないでください。ケガの原因となります。

●バッテリから液が漏れたり異臭がするときは、すぐに火気より遠ざけてください。漏れた液に引火して、発火・破裂のおそれがあります。もし、電池から漏れた液が眼に入ったときは、きれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。

お手入れについて



●液晶ディスプレイの汚れは、清潔でやわらかい乾いた布を使い、から拭きしてください。

●フロッピーディスクドライブは、乾式のクリーニングディスクを使って、定期的にクリーニングしてください。

Contents

第1章 スタートアップガイド

第2章 キーボード操作に馴れよう

第3章 Windowsとサウンド機能

第4章 システムを拡張する

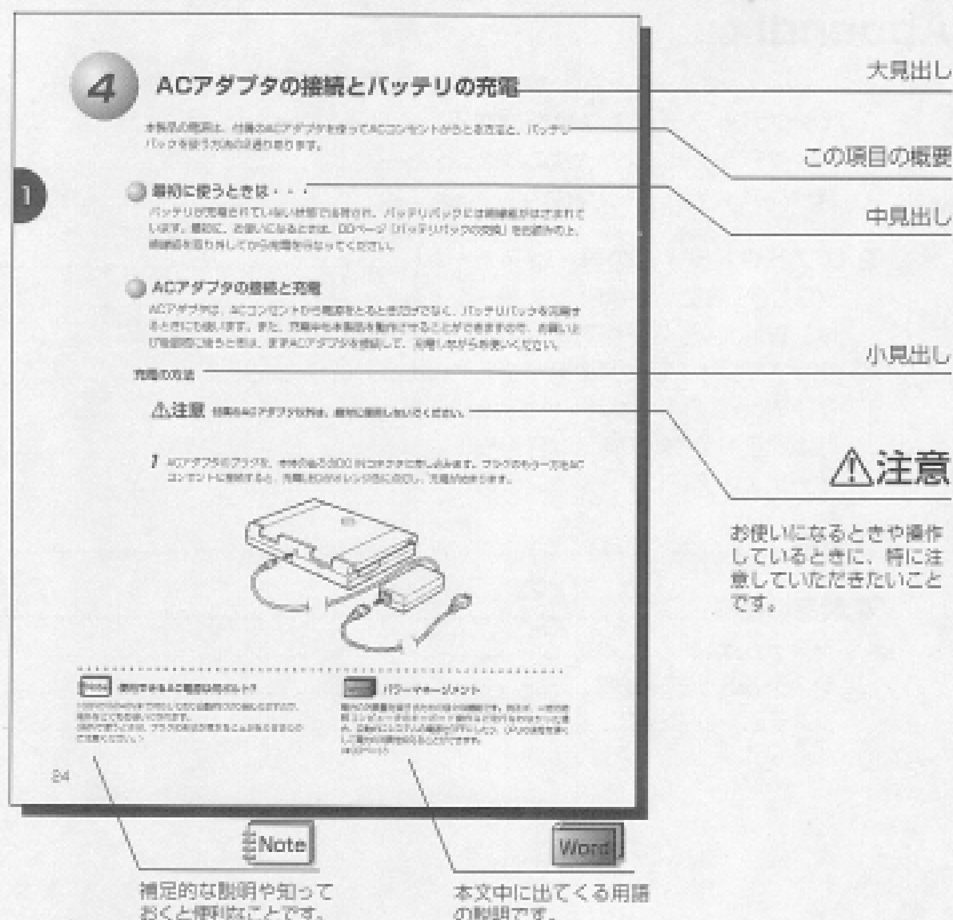
第5章 システムの設定を変える

第6章 トラブルが起きたら・・・

Appendix

ユーザーズガイドの読みかた

各ページの構成は、次のようになっています。



インデックスについて

チャプターインデックス

各章ごとに付けられています。

クイックインデックス

開いているページの大見出しです。左右両ページに大見出しがあるときは2つ入っています。

チャプターインデックスとクイックインデックスを使うと、素早く目的のページを探すことができます。

このユーザーズガイドは、ユーザーのレベルや使いかたに応じて大きく6つのセクションに分けられています。

付属品の確認から実際に電源を入れてWindowsを立ちあげるまでを順番に説明しています。お買い上げ後初めて使うときには必ずお読みください。	スタートアップガイド	1
キーボード上のキーの位置と機能、および文字の入力方法について説明しています。キーボードに馴れていない方は必ずお読みください。	キーボード操作に馴れよう	2
インストールされているWindowsとMS Works、本製品のサウンド機能とオーディオアプリケーションについて説明しています。	Windowsとサウンド機能	3
PCカードの使いかた、メモリやハードディスクの交換、および、外部周辺機器を接続する方法について説明しています。必要に応じてお読みください。	システムを拡張する	4
システムコンフィグレーションを使ったシステムの設定の変更や、パワーマネージメント機能の設定を変更する方法について説明しています。	システムの設定を変える	5
トラブルが発生したときの原因と対処方法について説明しています。うまく動作しないときなどにお読みください。	トラブルが起きたら・・・	6
バックアップディスクの作成と、Windowsやデバイスドライバなどを再インストールする方法について説明しています。	Appendix	

コンピュータに触れるのは初めてという方や、コンピュータにあまり詳しくないという方は、「第1章 スタートアップガイド」と「第2章 キーボード操作に馴れよう」だけお読みいただければ、ひと通り使いこなせるようになります。
サウンド機能を活用したり、PCカードを使って機能を拡張するなど、本製品をより有効に活用しようとする場合は、「第3章 Windowsとサウンド機能」「第4章 システムを拡張する」をお読みください。
また、パワーマネージメント機能の設定を変えたり、システムを自分好みの設定に変えようとする場合は、「第5章 システムの設定を変える」をお読みください。
使っているときに動作がおかしくなったり、何らかのトラブルが発生した場合は、「第6章 トラブルが起きたら…」をお読みください。トラブルを解決する手助けとなることでしょう。

困ったときはサポートへ・・・

本製品の使用中に何らかのトラブルが発生したときは、98ページの「第6章 トラブルが起きたら…」のページをお読みください。状況に応じた解決方法が書かれています。

ユーザーズガイドを読んでもトラブルが解決しないときや、わからないことが出てきたときは、弊社のテクニカルサポートセンタにお問い合わせください。

●電話をかけるときは・・・

電話をかける前には、次のことを確認し、本製品を手元に用意しておいてください。
・本製品を購入された販売店、代理店の名称
・本製品のシリアル番号(コンピュータ底面のラベルに印刷してあります)
・トラブルが起きたときの状況と状態、または、問題点のできるだけ詳しい内容

●テクニカルサポートFAXシートを使うときは・・・

本製品に付属している「テクニカルサポートFAXシート記入用紙」にトラブルの内容や問題点を記入し、FAXで送付します。

ソーテック　テクニカルサポートセンタ

電話番号　045-661-7358
FAX番号　045-662-0656
毎週月曜日～金曜日 午前10時～午後12時・午後1時～午後4時
(祝祭日を除きます。)

書面の郵送、または物品を送付するときは以下のところへお願いいたします。
なお、ご発送の際には必ず購入時と同じ梱包(梱包箱、パッキン)にてご返送ください。

〒231　神奈川県横浜市中区太田町4-55横浜馬車道ビル
株式会社ソーテック　テクニカルサポートセンタ

⚠注意　ハードディスクを修理する場合はドライブのみの修理もしくは交換となります。記憶されているアプリケーション、データ等の保証、復旧はいたしかねますので重要なものについては必ずバックアップを取っておいてください。

第1章

スタートアップガイド

付属品の確認と、実際に電源を入れてWindowsを立ち上げるまでを、順を追って説明しています。本製品をお買い上げ後、初めて使われるときには必ずお読みください。

1 WinBook Proの機能を知る

WinBook Proの主な機能や特長を紹介します。

●ペンティアム90MHz(P90Tモデル)
486DX4/100MHz(100Tモデル)

●A4サイズ、薄さ45mm。2.7Kg(P90Tモデル)、2.6Kg(100Tモデル)

●800×600ドット、
10.4インチのSVGA対応
(※DOS上では、VGAモード
640×480ドットのみ対応)

●8MB標準メモリー、
最大40MBまで増設可能

●TFTカラー液晶ディスプレイ採用

●最高6万5536色表示が可能

●マルチメディア対応の
16ビットサウンドブラ
スタPRO互換サウンド
機能搭載

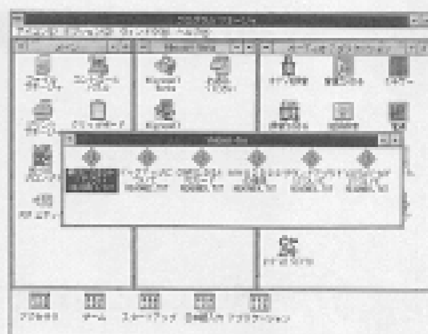
●PCMCIAカード(Ver2.0準拠)
TYPEⅡ×2スロット、または
TYPEⅢ×1スロットを標準装備

●3モード3.5インチ
FDD標準装備

●810MB(P90Tモデル)、
540MB(100Tモデル)着脱式大容量HDD
を標準装備

●スティックポインタ標準装備

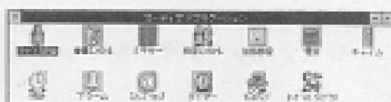
●MS-DOS Ver6.2/V、
MS Windows3.1をプレインストール



●ワードプロセッサ・表計算・データベース・通信の4つのツールで構成されている統合ソフトウェア　MS Worksをプレインストール



●サウンド機能を活用できる様々なオーディオアプリケーションをプレインストール



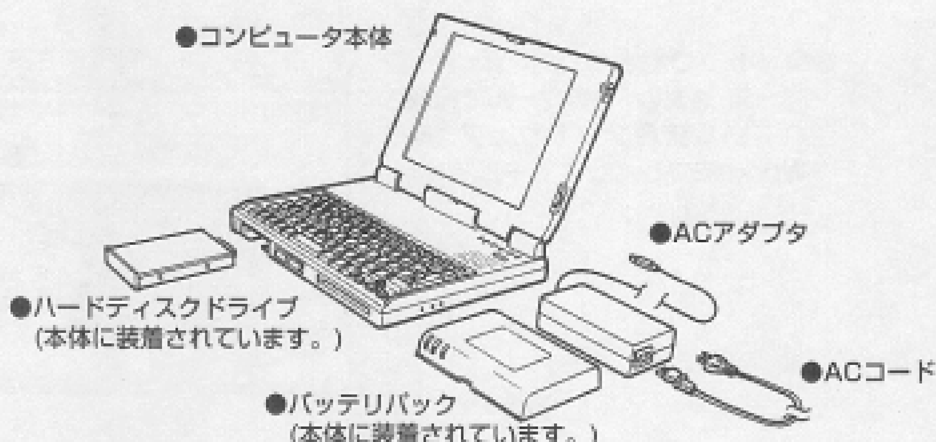
●PCカードウィザード機能
(Card Wizard)搭載



2 梱包の内容を確認する

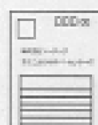
ソーテックWinBook Proには、コンピュータ本体の他に次のような付属品とソフトウェアが含まれています。パッケージを開けたら、付属品に不足がないかどうか確認してください。

ハードウェアと付属品

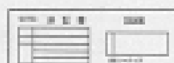


●スティックポインタキャップ　3個

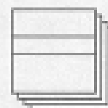
●ユーザ登録カード



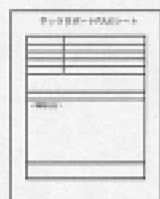
●保証書



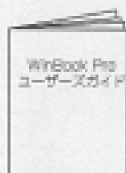
●フロッピーディスクラベル　27枚



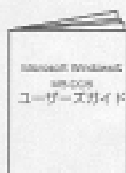
●テックサポートFAXシート



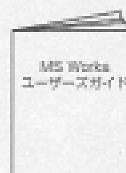
●WinBook Pro ユーザーズガイド(本書です。)



●Microsoft Windows& MS-DOSユーザーズガイド



●MS Works ユーザーズガイド



インストールされているソフトウェア

次のソフトウェアは、本体に装着されているハードディスクにあらかじめインストールされています。ソフトウェアについては、「インストールソフトウェアについて」(➔ 52ページ)で詳しく説明しています。

●MS-DOS Ver6.2/V

Microsoft Disk Operating Systemの略で、一般的に「DOS」、または、「システム」と呼ばれています。
コンピュータの電源をONにすると最初に読み込まれるプログラムで、Windowsを含めてすべてのアプリケーションやプログラムを動かす基本となるものです。
「C:¥>」と表示された状態から、コマンドを実行してファイルをコピーしたり、ディスクの中を見るなどの操作ができます。また、メモリを管理する役割もあります。
詳しい使いかたについては、付属の「Microsoft Windows&MS-DOSユーザーズガイド」をお読みください。

●Microsoft Windows Ver3.1

米国マイクロソフト社が開発したシステムで、同時に複数のアプリケーションを実行できるマルチタスク環境を実現しています。また、グラフィックを使ったインターフェイス(GUI)を持ち、マウスなどを使っての簡単な操作でアプリケーションを実行することができます。詳しい使いかたについては、「第3章 Windowsとサウンド機能」(➔51ページ)または、付属の「Microsoft Windows&MS-DOSユーザーズガイド」をお読みください。

●Microsoft Works for Windows

ワードプロセッサ・表計算・データベース・通信の4つのツールが入っている統合ソフトウェアです。文書の作成をはじめとして、データの集計・計算・グラフ作成から、データの管理、パソコン通信まで、ほとんどの作業がこのソフトウェア1つで行なうことができます。詳しい使いかたについては、付属の「MS Worksユーザーズガイド」をお読みください。

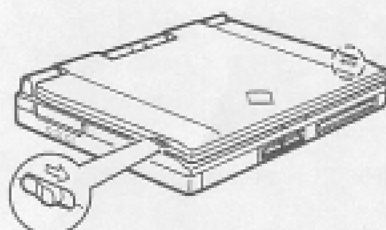
●Card Wizard

PCカードをより有効に使いやすくするためのユーティリティで、PCカードの自動認識や装着されているカード種別の確認、各設定値の変更などができます。また、不適切な設定により正しく動作しない場合も、解決方法を段階を追って示し、トラブルを回避することができます。さらに、PCカードとアプリケーションを関連づけておく機能があり、たとえば、モデムカードを挿入すると自動的に通信ソフトを起動させるといったような使いかたができます。

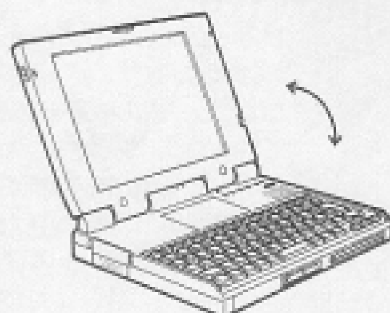
3 各部の名前と機能を確認する

本体各部の名前とその機能について説明します。なお、別のページで詳しく説明されている部分もありますので、参照ページもあわせてお読みください。

カバーの開け閉め

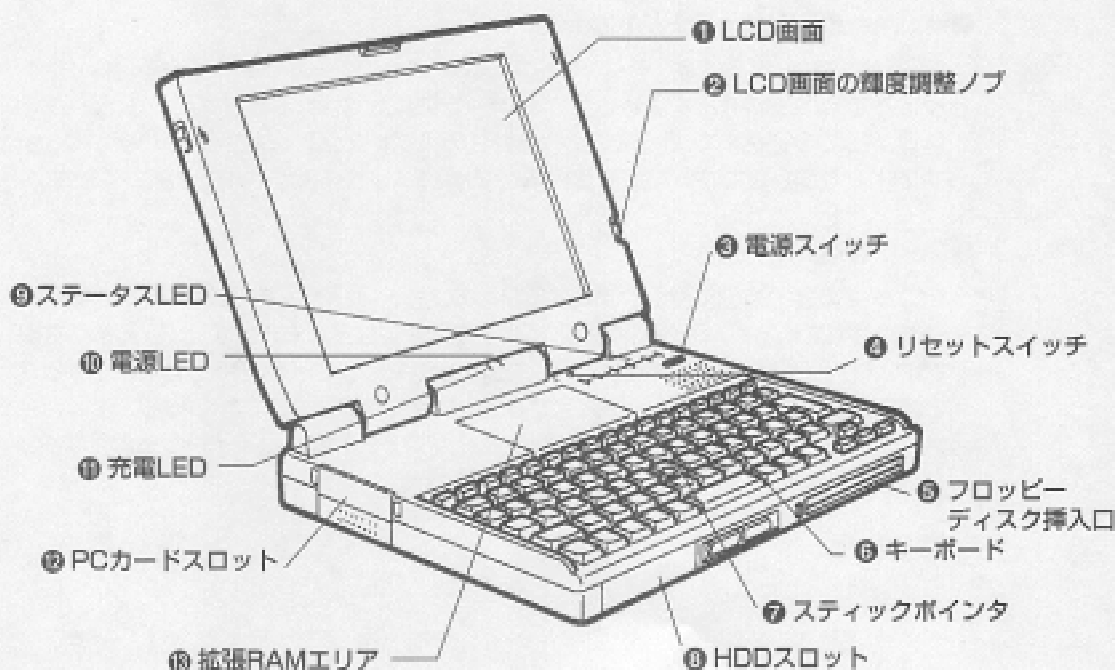


カバーを開けるときは、手前の左右側面にあるラッチを手前にスライドさせながら、見やすい角度まで開きます。ACアダプタが接続されていなければ180度まで開けることができます。



カバーを閉じるときは、ラッチがロックされるようにします。ONのままカバーを閉じると、約10秒後にサスペンド・レジューム状態に入ります。

前面・上面



❶LCD画面

文字やグラフィックが表示されます。パワーマネージメントの設定によりコンピュータが動作していなければ、自動的に表示が消えるようにすることもできます。(➔ 86ページ)

❷LCD画面の輝度調整ノブ

画面の明るさを調整します。(バッテリ動作中は輝度が自動的に最低に設定されます。)

❸電源スイッチ

サスペンド・レジューム状態にさせたり、サスペンド・レジューム状態から動作状態に戻すことができます。また、パワーマネージメントの設定により、電源をON/OFFすることもできます。(➔ 88ページ)

❹リセットスイッチ

コンピュータを再起動させます。



HDD/FDDアクセスランプが点灯しているときに電源をOFFにしたりリセットしないでください。データを破壊するおそれがあります。また、電源をOFFにした後、再び電源をONにする場合は15秒以上待ってください。

❺フロッピーディスク挿入口

3.5インチフロッピーディスクを挿入します。フロッピーディスクを取り出すときは挿入口の左端にあるボタンを押します。



FDDアクセスランプが点灯しているときにディスクを取り出さないでください。データを破壊するおそれがあります。

❻キーボード

キーを押して文字や記号を入力したり、コマンド(命令)を送ります。(➔ 41ページ)

❼スティックポインタ

指を軽くのせて動かすと、カーソルが移動します。(➔ 35ページ)

❽HDDスロット

HDDカートリッジを収納します。(➔ 72ページ)

❾ステータスLED

動作状態を表示します。(➔ 23ページ)

❿電源LED

電源の状態を表示します。(➔ 25ページ)

⓫充電LED

充電の状態を表示します。(➔ 25ページ)

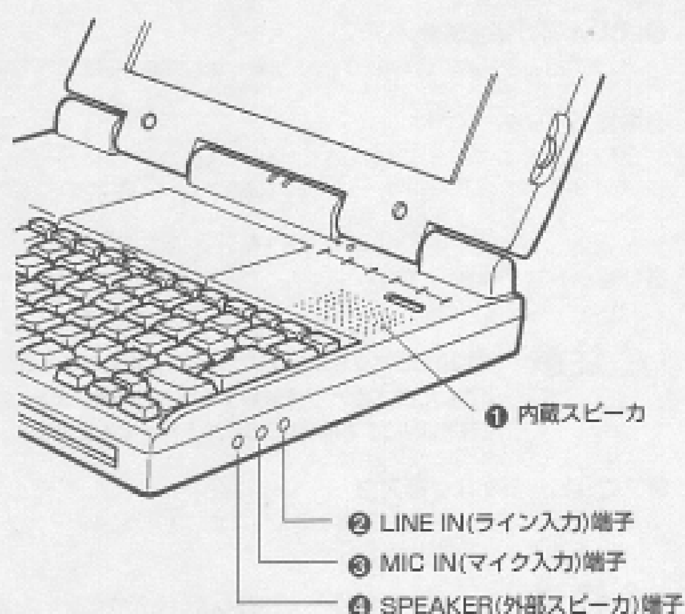
⓬PCカードスロット

PCMCIA規格準拠のPCカードを装着します。(➔ 60ページ)

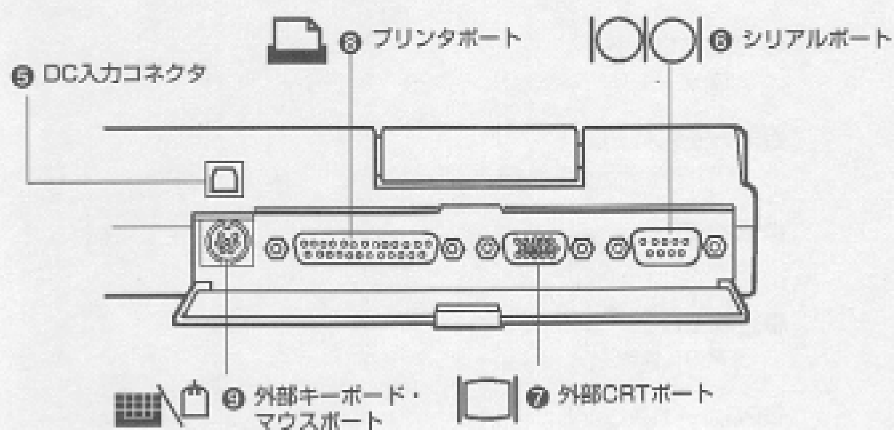
⓭拡張RAMエリア

拡張RAMモジュールを装着します。(➔ 70ページ)

右側面・後面



後面のふたはノブを下げながら開けてください。



❶内蔵スピーカ

36mm径のモノラルスピーカです。(➔ 55ページ)

❷LINE IN(ライン入力)端子

CDプレーヤなどの外部オーディオ機器を接続することにより、外部の音声をコンピュータに取り込むことができます。(➔ 56ページ)

❸MIC IN(マイク入力)端子

マイクのケーブルを接続することにより、外部の音声をコンピュータに取り込むことができます。(➔ 56ページ)

❹SPEAKER(外部スピーカ)端子

外部スピーカのケーブルを接続します。音声はステレオで出力されます。(➔ 56ページ)



ヘッドホンやイヤホンは接続しないでください。突然大きな音が鳴り聴力障害を起こすおそれがあります。

❺DC入力コネクタ

付属のACアダプタを接続します。(➔ 24ページ)

❻シリアルポート

モデムなどのシリアルポートを使う周辺機器を接続します。通常「COM1」に設定されますが、システムコンフィグレーションで「COM2」~「COM4」に変更できます。(➔ 80ページ)

❼外部CRTポート

外部CRTディスプレイを接続します。(➔ 72ページ)

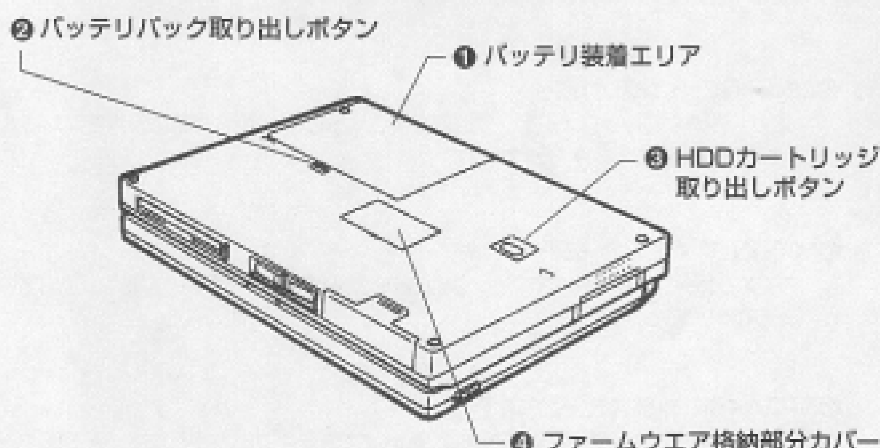
❽プリンタポート

プリンタを接続します。パラレルポートになっており、通常「LPT1」に設定されますが、システムコンフィグレーションで他の設定に変更できます。(➔ 80ページ)

❾外部キーボード・マウスポート

PS/2キーボードやマウスを接続することができます。また、市販のキーボード・マウスアダプタを使用すれば外部キーボードとマウスを同時に使うこともできます。(➔ 71ページ)

底面



❶バッテリ装着エリア

バッテリパックを装着します。(➔ 26ページ)

❷バッテリパック取り出しボタン

バッテリパックを取り出すときにこのボタンを押します。(➔ 26ページ)


注意 ACアダプタを接続していない状態で、コンピュータが動作しているときにバッテリパックを取り出さないでください。

❸HDDカートリッジ取り出しボタン

HDDカートリッジを取り出すときには、このボタンを押します。(➔ 68ページ)

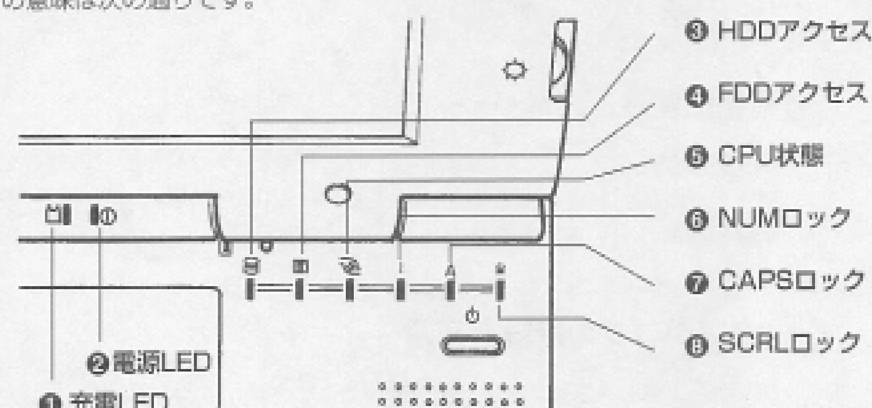

注意 コンピュータが動作中はHDDカートリッジを取り出さないでください。

❹ファームウェア格納部分カバー

このカバーは、開けないようにしてください。
コンピュータを動作させるために必要なICが装着されており、弊社テクニカルサポートセンタでのみ使用する目的に用意されています。

ステータスLEDについて

コンピュータの動作状態をステータスLEDで表わします。それぞれのマークと点灯状態の意味は次の通りです。



❶充電LED	充電の状態を表示します。(→ 25ページ)
❷電源LED	電源の状態を表示します。(→ 25ページ)
❸HDDアクセス	ハードディスクへのアクセス中に点灯します。
❹FDDアクセス	フロッピーディスクドライブへのアクセス中に点灯します。
❺CPU状態	CPUのスピードに応じて色が変化します。通常のスピードで動作しているときは緑色に点灯します。パワーセーブ機能が働いているか、CPUスピードが「LOW」に設定されているときはオレンジ色に点灯します。
❻NUMロック	NumLKキーがロック状態のときに点灯します。この状態でニューメリックキー(テンキー)が使えます。(46ページ)
❼CAPSロック	CpLKキーがロック状態のときに点灯します。この状態でシフトキーを押さずにアルファベットの大文字を入力することができます。
❽SCRLロック	ScrLKキーがロック状態のときに点灯します。この状態での機能は、アプリケーションにより異なります。

⚠注意 HDDアクセスとFDDアクセスの点灯中に電源をOFFにしないでください。データが消えたり壊れる可能性があります。

4 ACアダプタの接続とバッテリの充電

本製品の電源は、付属のACアダプタを使ってACコンセントからとる方法と、バッテリパックを使う方法の2通りあります。

最初に使うときは･･･

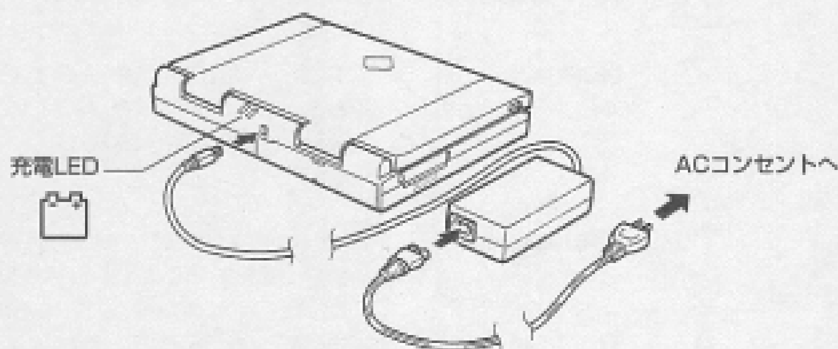
バッテリが充電されていない状態で出荷され、バッテリパックには絶縁紙がはさまれています。最初に、お使いになるときは、26ページ「バッテリパックの交換」をお読みの上、絶縁紙を取り外してから充電を行なってください。

ACアダプタの接続と充電

ACアダプタは、ACコンセントから電源をとるときだけでなく、バッテリパックを充電するときにも使います。また、充電中も本製品を動作させることができますので、お買い上げ後最初に使うときは、まずACアダプタを接続して、充電しながらお使いください。

⚠注意 **付属のACアダプタ以外は、絶対に使用しないでください。**

1 ACアダプタのプラグを、本体の後ろのDC入力コネクタに差し込みます。プラグのもう一方をACコンセントに接続すると、充電LEDがオレンジ色に点灯し、充電が始まります。



2 充電LEDが、緑色になったら充電は終わりです。バッテリのみでお使いのときはACアダプタを取り外してください。AC電源でお使いのときはこのままにしておきます。

Note 使用できるAC電源は何ボルト?

100Vから240Vまで対応しており自動的に切り替わりますので、海外などでもお使いになれます。
(海外で使うときは、プラグの形状が異なることがありますのでご注意ください。)

Note 充電時間について

全く充電されていない状態からフル充電されるまでには、約2時間30分かかります。
また、本体の電源のON/OFFにかかわらず急速充電されます。

充電LEDの意味

消灯	ACアダプタから電源が供給されていないか、バッテリパックが正しく装着されていない状態です。また、充電に適した温度条件を超えているなど、これ以上充電できない状態にあります。
オレンジ色	現在充電中です。
緑色	バッテリパックがフル充電されています。

電源LEDの意味

消灯	電源がOFFの状態です。
黄色	ACアダプタで動作しています。
オレンジ色	バッテリパックの残量が少なくなっています。(バッテリ使用時のみ)
緑色	バッテリで動作しています。バッテリパックがフル充電されています。

*サスペンド・レジューム状態のときは、点滅します。

バッテリ残量が少なくなったときは･･･

バッテリの残量が少なくなってくると、次の順で警告を発します。

電源LEDが、フル充電を表わす緑色からオレンジ色に変化する



約16秒ごとに「ピッ」という警告音がする

警告が発せられたら、次の手順で充電を行なってください。

1. すぐに、現在使用しているアプリケーションのデータをセーブする。
2. ACアダプタを接続して充電を行なうか、充電済みのバッテリパックと交換する。

⚠注意 **バッテリの残量が少ない状態でアプリケーションの操作を続けると、データファイルやプログラムファイルが消えるなどの事故が発生するおそれがあります。また、バッテリがすべて無くなると、アプリケーションの使用中でも電源が切れてしまいます。**

Note バッテリを節約するには･･･

- 使い終わったらすぐに電源をOFFにする。
- パワーマネージメント機能を活かす。特にグローバルスタンバイ機能を有効にしておくと効果的です。
- サスペンド･レジューム機能を有効にする。
- なるべく、ハードディスクにアクセスしないようにする。

Note リチウム電池について

本製品は、バッテリパックの他に内部にリチウム電池が装着されています。コンピュータ内部の時計やシステムコンフィグレーションなどの内容は、リチウム電池によって保持されていますので、バッテリパックを取り外してもこれらの内容が消えることはありません。

サスペンド・レジューム機能を使っている場合

パワーマネージメントの設定項目により、バッテリ残量が少なくなったときの動作が異なります。

設定項目:Battery Low

[Suspend]	バッテリ残量があとわずかの状態になると、自動的に現在実行しているアプリケーションの使用を停止し、サスペンド・レジューム状態に入ります。
[Warn Only(警告のみ)]	バッテリがなくなった時点で、電源が切れます。

サスペンド・レジューム機能を有効にしている場合でも、バッテリ残量が少なくなると約16秒ごとの警告音が鳴ります。
パワーマネージメントの設定方法については、83ページ「パワーマネージメントの設定」をお読みください。

バッテリパックの交換



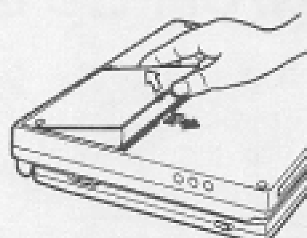
注意 付属のバッテリパック以外のバッテリは絶対に使用しないでください。また、バッテリパックの分解や破壊、火中への投入、加熱、端子の短絡なども絶対に行なわないでください。爆発したり火災を起こすおそれがあります

バッテリパックの交換は、電源がOFFのときかACアダプタで電源を供給しているときしかできません。交換の前には、電源LEDが消灯、もしくは黄色に点灯していることを確かめてください。緑またはオレンジに点灯しているときは、データをディスクにセーブするか、ACアダプタを差し込んでからバッテリパックを交換してください。(サスペンドレジュームの状態でも交換することができます。)

Word サスペンド・レジューム

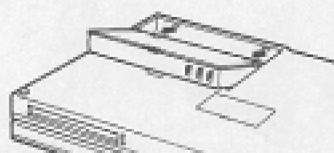
アプリケーションの実行中に電源をOFFにすると現在の状態をメモリに保存し、電源をONにしたときには、OFFにする直前と同じ状態で動作させることができる機能です。使っているアプリケーションを終了させることなく作業を中断でき、再び作業を始めるときにもアプリケーションを起動しなおす必要がありません。ただし、レジューム状態であっても、少量の電力が消費されていますので、バッテリを使っているときに長時間この状態のままにしておくことはお勧めできません。この機能は、パワーマネージメント(➔ 83ページ)で有効か無効かを設定できます。

1 本体の底にあるバッテリパック取り出しボタンを、図の矢印の方向にスライドさせてカバーを開けます。



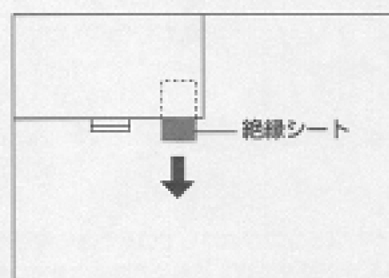
2 バッテリパックの手前のふちを手で持ち、ゆっくりと取りはずします。本製品を初めて使うときはここで絶縁紙を取り除きます。

3 交換用のバッテリパックの端子面が本体の前面に向かうようにして、後ろの突起部を装着エリアに合わせてはめ込みます。



4 手前の部分をゆっくりとはめてください。確実に装着されているのを確認したら、カバーを元通りにします。最後に、取り出しボタンがロックされているのを確認してください。

最初に使うときは絶縁シートを取り除いてください。

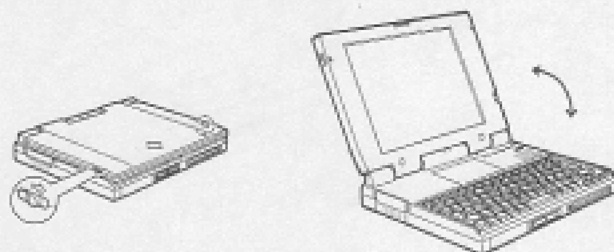


5 電源のON/OFFとリセット

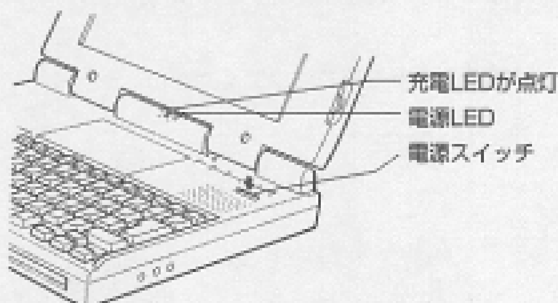
電源のON/OFFとリセットの方法について説明します。電源を入れる前には、ACアダプタが接続されているか、もしくは、バッテリがフル充電されているかどうかを確認してください。なお、出荷時には、電源ONの状態で電源スイッチを押すと自動的にレジューム状態になるように設定されています。電源をOFFにする場合は32ページをお読みの上、設定を変更してください。

電源のON/OFF

1 本体の両端にあるラッチを手前にスライドさせてカバーを開いてください。



2 キーボードの右上にある電源スイッチを押します。
電源をOFFにするときは、もう一度電源スイッチを押します。



⚠注意 HDD/FDDアクセスランプが点灯しているときに電源をOFFにしたりリセットさせないでください。データを破壊するおそれがあります。また、電源をOFFにした後、再び電源をONにする場合は15秒以上待ってください。

Note 電源LEDの意味

消灯	:電源がOFFの状態です。
オレンジ色	:バッテリパックの残量が少なくなっています。
黄色	:ACアダプタで動作しています。
緑色	:十分充電されたバッテリで動作しています。

*サスペンド・レジューム状態のときは、点滅します。

Note 充電LEDの意味

消灯	:ACアダプタから電源が供給されていないか、バッテリパックが正しく装着されていない状態です。また、充電に適した温度条件を超えているなど、これ以上充電できない状態にあります。
オレンジ色	:現在充電中です。
緑色	:バッテリパックがフル充電されています。

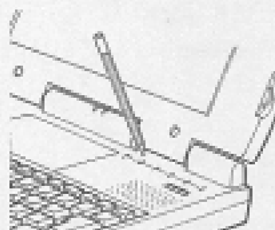
コンピュータをリセットする

コンピュータを使っていると、突然何も反応しなくなったり動作が不安定になることがあります。このような状態を「ハングアップ」といい、多くの場合、ソフトウェア側に原因があります。
ハングアップした場合、状態によってはある動作を行なえば元に戻ることがあります。(Note「ハングアップしたときは」参照)しかし、どうしても元に戻らないときは、リセットをかけてコンピュータを再起動させなければなりません。このとき、RAMに一時的に記憶されているアプリケーションで作りかけているデータも含めて、すべてのセーブされていないデータは消えてしまいます。
このような事態になったときに備えて、日頃からこまめにデータをセーブしておくように心がけてください。

⚠注意 **リセット以外のいかなる方法によっても対処できない場合を除き、むやみにリセットをかけないでください。一部のアプリケーションでは、正しい方法で終了させなければデータが消失したり、作業ファイルが残ったままになる場合があります。**

リセットの方法

- Ctrl と Alt と Delete キーを同時に押す。(Windowsの場合は、Note参照)
- 図の位置にある、リセットスイッチをボールペンの先などで押す。



リセットすると、再びMS-DOSやWindowsが読み込まれて再起動します。

⚠注意 **リセットすると、セーブされていないすべてのデータは消えてしまいます。**

Note DOS環境でハングアップしたときは・・・

Pause Break キーを押すか、Ctrl キーと C キーを同時に押してください。一部のアプリケーションでは、この方法でMS-DOSのプロンプト表示に戻ることができます。

Note Windowsでハングアップしたときは・・・

Ctrl と Alt と Delete キーを同時に押すと、ハングアップの原因となっているアプリケーションだけを終了するか、それとも、Windowsを再起動するのかを確認するメッセージが表示されます。このとき ↵ キーを押すと、ハングアップしたアプリケーションだけ終了できます。

6 バックアップディスクの作成

電源をONにすると、自己診断機能が働き、数秒後にその結果が画面に表示されます。

システムに異常が無い場合は、その後、次のメッセージが表示されます。

> ようこそ
>
> WinBook Proをお買い求めいただきまことにありがとうございました。
> わたしたちのコンピュータを御利用になることでお客様の仕事、生活が一層発展されることを期待しています。
>
> 株式会社ソーテック
>
> なにかキーを押すと引き続きバックアップディスケットの作成の作業に移ります。
>
> バックアップ作業後、以下のようタイプするとユーザーズガイドに記されていない、最新の情報を知ることができます。
>
> README<Enter>

本製品に付属している、MS-DOSやWindows、MS Works、および各種のユーティリティやドライバは内蔵ハードディスクにインストールされています。
万が一何らかのトラブルや故障が発生して、これらのプログラムを再インストールする必要が起きたときのために、フロッピーディスクにバックアップをとっておくことをお勧めします。
本製品では、簡単な操作でバックアップディスクを作成するバックアッププログラム〈STBACKUP.EXE〉が付属しています。
バックアップディスクの作成方法については、104ページ「バックアップディスクを作成する」をお読みください。
(このメッセージを表示させないようにする方法については、105ページで説明しています。)

Note 画面を見やすく調整しましょう

「ようこそ」メッセージが表示されているときに、LCD画面の右側にあるノブを回して、液晶画面の輝度を見やすくなるように調整してください。

Note READMEファイルを読みましょう

Cドライブにある「README」ファイルには、このユーザーズガイドに記述されていない補足説明や注意事項が書かれています。「C:¥>」と表示されている状態から次のように入力してお読みください。
README↵

7 日付と時刻を合わせる

お買い上げ後、本製品を最初に使うときは、コンピュータ内部のカレンダと時計を合わせる必要があります。次の手順で行なってください。なお、ここでは日本語環境での設定方法を例に説明しています。

⚠注意 **カレンダと時計が間違っていると、データファイルなどのタイムスタンプが間違って記録され、データ更新時や他のパソコンで作成されたファイルを読み込んだときなどに他のファイルと整合性がとれなくなります。最悪の場合、消す必要のないファイルが消されることもありますので、必ず正しい日付と時刻を設定しておいてください。**

1 MS-DOSのプロンプト(C¥>など)が表示されている状態で、DATEと入力して↵キーを押します。

```
C:¥>DATE↵
```

2 次のメッセージが表示されます。正しい日付を「-」で区切って半角数字で入力してから↵キーを押します。正しい日付が表示されている場合は、そのまま↵キーを押します。

```
現在の日付は 1995-12-24 (日)
日付を入力してください (年-月-日):1995-12-25↵
                                  年   月  日
```

英語環境のときは(mm-dd-yy)の順です。

3 TIMEと入力して↵キーを押します。

```
C:¥>TIME↵
```

4 次のメッセージが表示されますので、正しい時刻を24時間表記で半角数字で入力してから↵キーを押します。「時」と「分」の間は「-」で、「分」と「秒」の間は「.」で区切ります。正しい時間が表示されている場合は、そのまま↵キーを押します。

```
現在の時刻は 12:21:22.22
時刻を入力してください :12:22:00.00↵
                        時  分   秒
```

Note 急に画面が真っ暗になったら…

一定の時間キーを押さない状態が続くと、急に画面表示が消えることがあります。
これは、パワーセービング機能を設定しているときにパワーセービング状態に入ったことにより画面が消えたもので故障ではありません。何らかのキーを押すと元の表示に戻ります。

パワーセービング機能の設定については、86ページ「パワーセービング機能の設定」をお読みください。

8 レジューム機能とスピーカ音量を設定する

実際にアプリケーションを使う前に、コンピュータ本体の動作環境を設定しておきます。

サスペンド・レジューム機能の設定

本製品には、アプリケーションの実行中に電源をOFFにすると現在の状態をメモリに保存し、電源をONにしたときには、OFFにする直前と同じ状態で動作させることができる「サスペンド・レジューム機能」が搭載されています。

この機能を有効にしておくと、たとえばワープロで文書を作成している途中で作業を中断したいと思った場合、ワープロを一旦終了させることなく、電源をOFFにすることができます。再び電源をONにするだけで電源OFFの直前の状態から作業を始めることができます。ワープロを起動させてファイルを読み込む作業を省くことができ、非常に便利です。出荷時には、電源ONの状態で電源スイッチを押したときに自動的にレジューム状態になるように設定されています。このとき、レジューム状態ではなく電源がOFFになるようにしておきたい場合は、次の手順で設定を変更してください。設定方法はモデルにより異なります。

P90Tの場合

1 Fn+Escを同時に押して、パワーマネジメントメニューを表示させます。

2 Altキーを押してから、Pキーを押します。

3 ▼キーで[Suspend Switch]を選びます。

4 （スペース）キーを押して、電源スイッチの機能を設定します。
・左側のチェックマークが消えている状態・・・電源ON/OFFとして機能
・左側のチェックマークが付いている状態・・・レジュームON/OFFとして機能

5 Escキーを押して、Xキーを2回押します。

6 最後に↵キーを押します。

100Tの場合

1 Fn+Escを同時に押して、パワーマネジメントメニューを表示させます。

2 ◀▶キーでメニューから[Controls]を選びます。

3 ▼キーで[Power Switch]を選びます。

4 ▼▲キーで電源スイッチの機能を選択します。
- ・[On/Off]を選んでいる状態 .... 電源ON/OFFとして機能
- ・[Suspend/Resume]を選んでいる状態 .... レジュームON/OFFとして機能

5 ↵を押して確定します。

6 Escキーを押してからF10キーを押します。

スピーカの音量の調節

本製品にはスピーカが内蔵されています。DOSアプリケーションの場合スピーカの音量は次の操作で調整できます。
また、使用するアプリケーションによっては、別の方法で設定できるようになっているものがあります。その場合、使用するアプリケーションのマニュアルの音量設定の項目をお読みの上調整してください。

Fn+F2 音量を上げる
Fn+F3 音量を下げる

Word パワーマネージメント

電力の消費量を減らすための様々な機能です。たとえば、一定の時間コンピュータの操作を行なわなかった場合、自動的に電源をOFFにしたり、CPUの速度を遅くするなどの機能があります。(→ 83ページ)

Note Windowsでの音量調節は?

Windowsでの音量の調節は、サウンドアプリケーションの中のボリュームコントロールプログラムを使用します。詳しくは、「サウンド機能を使う」55ページをお読みください。

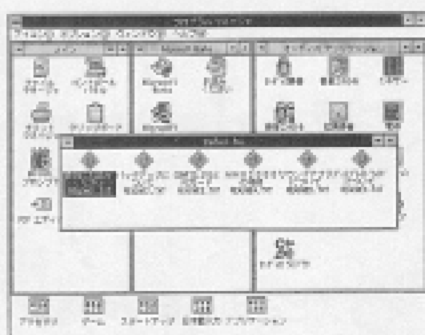
9 Windowsを起動させる

Windowsを起動させる方法を説明します。バックアップユーティリティが起動している場合は、キーを押して一旦終了させておいてください。

電源をONにして、各種のドライバやプログラムが読み込まれると、黒い画面の左端に「C:¥>」と表示され、カーソルが点滅します。
この状態で、何かのコマンド(命令)をキーボードから入力すると、アプリケーションが起動したり、ハードディスクの内容を見ることができます。

本体のハードディスクにインストールされている、Windowsを起動するときは、ここで「WIN」と入力し、続いて↵キーを押します。

```
C:¥>WIN↵
```



(実際の画面とは異なります。)

Windowsのタイトルに続いて、画面に「プログラムマネージャー」といろいろなアイコンが表示されたことと思います。
また、画面の真ん中に表示されている矢印は「ポインタ」あるいは「マウスカーソル」と呼ばれ、画面の中を自由に動かすことができます。

Windowsの世界では、文字を入力する操作以外のほとんどを、ポインタでアイコンやメニューを選んで、それをクリックすることで行ないます。
「クリック」とは、マウスのボタンを押すことで、本製品の場合は、マウスの替わりに「スティックポインタ」を使ってポインタを動かし、手前にあるボタンでクリックすることができるようになっています。
「スティックポインタ」の使いかたについては、次のページで説明しています。

Word Windows

米国マイクロソフト社が開発したシステムで、同時に複数のアプリケーションを実行できるマルチタスク環境を実現しています。また、グラフィックを使ったインターフェイス(GUI)を持ち、マウスなどを使っての簡単な操作でアプリケーションを実行することができます。

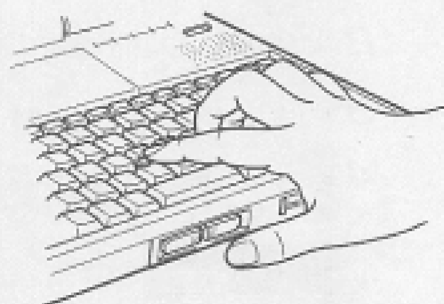
10 スティックポインタの使いかた

本製品には、マウスと同じ役割を果たす「スティックポインタ」と左右2つのボタンが装備されています。Windowsやマウスを使うDOSアプリケーションでは、これらを使ってポインタ(カーソル)を動かしたりクリックすることができます。

画面のポインタを動かすには・・・

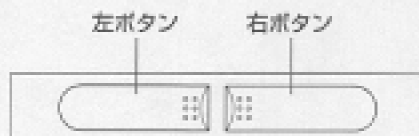
スティックポインタは、本製品のキーボード中央"G" "H" "B"の各キーの間にあります。このスティックポインタの先端に指を触れ、上下左右方向に軽く押すと、画面上のポインタがその方向に移動します。





クリックするには・・・

マウスの左右のボタンに相当するボタンは、キーボードの手前中央に2つあります。
ポインタをアイコンやボタン、メニューなどの位置に移動してから、このボタンを親指などで押すと、クリックすることができます。
ほとんどのアプリケーションでは、何かを決定したり実行する場合は、左ボタンをクリックします。
クリックで実行される動作は、アプリケーションによって異なります。



Note スティックポインタのしくみ

スティックポインタそのものは固定されており、指で押しても動きません。スティックポインタに加えられた圧力を自動的にコンピュータが検出して、マウスと同様の動きを制御します。

実際に動かしてみよう

ここでは、実際にスティックポインタを使って、本製品のREADMEヘルプファイルを読んでみましょう。なお、Windowsの使いかたがよくわからないという方は、52ページ「Windowsを使う」を先にお読みください。

1 スティックポインタに軽く指を触れ、【Winbook Pro】グループにあるアイコンの上にポインタをのせます。



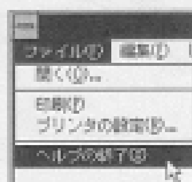
(実際の画面とは異なります。)

左のボタンを素早く2回続けて押します。(これをダブルクリックといいます)

2 READMEヘルプファイルが開きます。

3 読み終わったら、メニューバーの【ファイル】にポインタをのせます。

4 左ボタンを1回押したまま、ポインタを下方向に軽く押して【ヘルプの終了】まで移動し、そこでボタンを離すと、ヘルプが終了します。



どうですか?うまくポインタが動きましたか?
馴れるまではうまく目的の場所でポインタが止まらないかもしれませんが、何度か使っているうちにコツがつかめるようになり、自由自在に動かせるようになります。

Note 外部マウスを接続したときの設定

スティックポインタはPS/2マウスと互換性があります。
外部キーボードポートにPS/2マウスを直接接続した場合は、内部のスティックポインタは禁止され、外部に接続したPS/2マウスが優先して動作します。外部キーボードポートにキーボード・マウスアダプタを経由してPS/2マウスを接続した場合は、スティックポインタと外部に接続したPS/2マウスを同時に使用することができます。
内部のスティックポインタを使わない設定にしないと、使用するプログラムによってはうまく動作しない場合があります。このようなときは、システムコンフィグレーションメニューから、ステックポインタを無効に設定にします。(→ 81ページ)

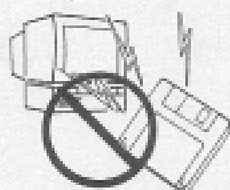
11 フロッピーディスクドライブの使いかた

本製品には、3.5インチフロッピーディスクドライブが装備されています。ここでは、フロッピーディスクを取り扱うときの注意と、ドライブにセットする方法について説明します。

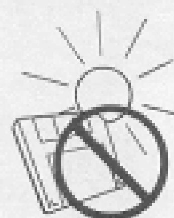
フロッピーディスクを使うときの注意

3.5インチフロッピーディスクは、入力したデータなどを保存するのに使う大切なものです。取り扱いにあたっては次の点を十分注意してください。
また、フロッピーディスクを使わない場合は、必ず、コンピュータの電源をOFFにする前にドライブから取り出して、適切な場所に保管するようにしてください。

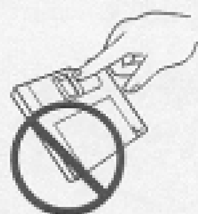
⚠ 注意



テレビやモータのような、磁気を発生する物のそばに置かないでください。



特に直射日光のあたる車の中や、高温になる場所に置かないでください。また、湿度の高いところに置かないでください。



シャッターを開けないでください。内部の記憶メディアに傷を付けるおそれがあります。



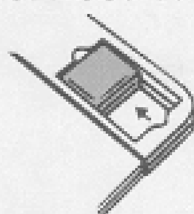
ラベルは、正しい位置(一段へこんでいます)にお貼りください。また、別のラベルを貼るときは重ねて貼らずに、前のラベルをはがしてください。

Word PS/2マウス

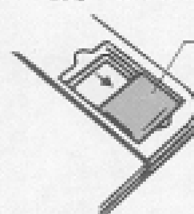
マザーボード上のマウスポートに接続するタイプのマウス。コネクタは通常6ピンのミニDINが使われています。

データを書き込み禁止にする

フロッピーディスクには、間違って保存しているデータを消したり、上書きされないように、書き込みを禁止(ライトプロテクトといいます)できるようになっています。
ライトプロテクトを行なうには、フロッピーディスクの裏側(金属の円盤が見えるほう)の一方のカドにあるライトプロテクトノッチを動かします。



書き込み可能状態

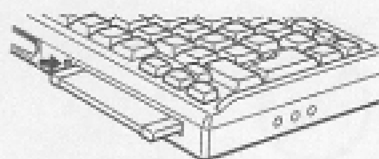


書き込み禁止状態

- 書き込み禁止ノッチが"上側"になっていると、フロッピーディスクをフォーマットしたり、ファイルの書き込みや消去などができます。
- 書き込み禁止ノッチが"下側"になっていると(四角い穴が開いている状態)、フロッピーディスクのデータを消去したり、上書きしたり、追加することはできません。

ドライブへの出し入れ

フロッピーディスクをドライブにセットする場合は、ラベル面を上側にし、シャッターのあるほうを先にドライブの中に挿入します。
フロッピーディスクが正しくセットされると、FDDイジェクトボタンが飛び出します。



フロッピーディスクを取り出すときは、FDDイジェクトボタンを押してください。フロッピーディスクが少し飛び出し、取り出せるようになります。

Word CONFIG.SYS

MS-DOSの基本的なシステム動作環境を設定するファイルです。各種のドライバなどをCONFIG.SYSという名前のファイルに登録しておくと、コンピュータが起動したときに最初に読み込まれ、システムに組み込まれます。

1.2MBディスクを使えるようにするには

Microsoft・MS-DOS・Version6.2/Vの3モード対応ユーティリティ「1024FD.EXE」を使うと、NEC PC-9800シリーズなどで使われている1.2MBフォーマットのフロッピーディスクが読み書きできるようになります。
なお、出荷時には、「1024FD.EXE」は組み込まれていません。3モード対応として使うには、まず次の方法で「1024FD.EXE」をシステムに組み込んでください。

● 常に1.2MBフロッピーを読めるようにしておくには、CONFIG.SYSに登録します。

Windowsのメモ帳やエディタなどを使って、CONFIG.SYSに次の1行を追記します。

```
DEVICE=C:¥DOS¥1024FD.EXE
```

● 1.2MBフロッピーを使うときだけ組み込むには、MS-DOSのプロンプトが表示されている状態から直接実行します。

「C:¥>」と表示されている状態で次のコマンドを入力して、↵キーを押します。

```
C:¥>DOS¥1024FD↵
```

⚠注意 「1024FD.EXE」が組み込まれている状態で、WindowsのDOS互換ボックスからCOPYコマンドを使用する場合には、ベリファイオプション/Vは使用しないでください。Windowsが異常動作し、データが破壊されたり、実行中のアプリケーションが強制終了するおそれがあります。

Note 読み書きできるフォーマットは?

出荷時のままの状態では、2DD(両面倍密度倍トラックタイプ)の720KB、2HD(両面高密度倍トラックタイプ)の1.44MBの2モード。「1024FD.EXE」を組み込むとそれに加えて1.2MBの読み書きが可能になります。

Note 1.2MBでのフォーマットは?

3モード対応ユーティリティは、1.2MBのフォーマットディスクのリード/ライトのみをサポートするもので、フロッピーディスクのフォーマットは行なえません。また、1.2MBフォーマットのフロッピーディスクからの起動も行なえません。

MEMO

第2章

キーボード操作に馴れよう

キーボード上のキーの位置と機能、および文字の入力方法について説明しています。キーボード操作に馴れていない方は必ずお読みください。

1 キーボード各部の名前と機能

キーボードは、文字や記号を入力したりコンピュータへ指示を行なう役目をもっています。ここでは、このキーボードの各キーの名前や機能について説明します。



キーは、その機能によって大きく3つに分けることができます。

文字入力キー(薄い色の部分)

主に、アルファベットやひらがな、カタカナ、数字、記号などを入力するためのキーです。1つのキーに2つ以上の文字が割り当てられており、CpLk Shift NumLk ひらがな カタカナの各キーと組み合わせて目的の文字が入力できるようになっています。

使いかたについては、47ページ「文字を入力する」で詳しく説明しています。

制御キー(濃い色の部分)

文字入力キーと組み合わせて使うキーや、入力する位置を決めたり動かしたりするためのキー、および、コンピュータに対してコマンド(命令)を送るためのキーなどです。これらのキーだけを使って直接文字を入力することはできません。(44ページ参照)

Note ロック状態について

キーには、1回押すごとに状態が固定され、ロック状態になるキーと、固定されずに押したときだけ機能するキーの2通りあります。

ロックされるキーの中でも右の3種類のキーは、ロック状態になるとステータスLEDが点灯します。



システムファンクションキー

制御キーの一つである[Fn]キーと[Esc]キー、または、ファンクションキーの組み合わせにより、パワーマネージメントのメニューを呼び出したり、スピーカの音量を調整することができます。各機能の詳細については参照ページをお読みください。

パワーマネージメントメニューを呼び出す(➔ 83ページ)


を押す

スピーカの音量を調整する


音量を上げる


音量を下げる

クロックスピードを変える


1回押すごとに、FAST(速い)/SLOW(遅い)が切り替わります。

LCD表示かCRT表示かを切り替える

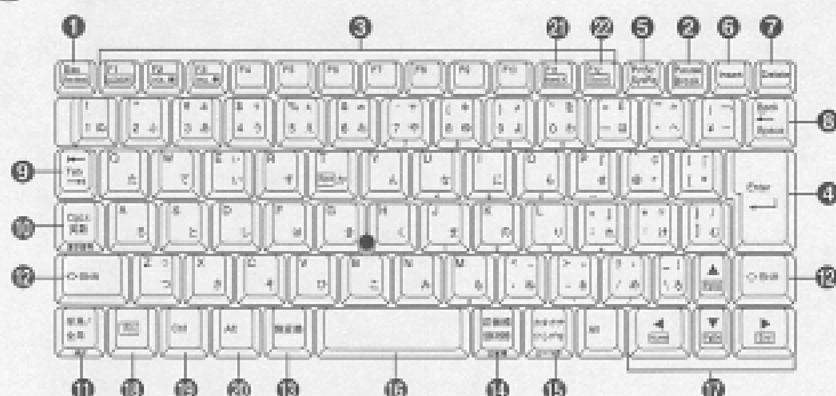

1回押すごとに、LCDのみ→CRTのみ→LCD·CRT同時の順に切り替わります。

ディスプレイについては、72ページをお読みください。

Note　システムコンフィグレーションメニューの呼び出し

コンピュータの動作を設定するシステムコンフィグレーションメニューを呼び出すには、[Ctrl]+[Alt]+[S]の3つのキーを同時に押します。なお、設定を変更した後は自動的にシステムが再起動されます。システムコンフィグレーションメニューを呼び出す前には、作成したデータなどは必ず保存しておいてください。設定方法については、「第5章 システムの設定を変える」(➔ 73ページ)をお読みください。

各キーの機能



中止や中断させるコマンド(命令)を送ります。

❶ESC(エスケープ)キー
設定を取り消したり、実行を中止するときなどに押します。

❷Pause Break(ポーズ・ブレーク)キー
実行されているものを中断したり、ブレーク信号を送るときなどに押します。

設定されている機能を呼び出すときに使います。

❸ファンクションキー
F1からF12までの12個のキーにそれぞれ別の機能やコマンド(命令)が割り付けられています。内容はアプリケーションにより異なります。

コマンド(命令)や設定されたものを決定するときに使います。

❹Enter(エンター)キー
通常、あるコマンド(命令)の実行を決定したり、設定されたものを確定させるというような場合に押します。また、文字を入力しているときは、このキーで改行させることができます。

画面のハードコピーをとったり、Windowsの画面を取り込むのに使います。

❺PrtSc(プリントスクリーン)キー
DOS環境で使っている場合は、表示されている画面のハードコピーをとることができます。Windowsを使っている場合は、表示されている画面を取り込んでクリップボードに転送できます。

文字を編集するときに使います。

❻Insert(インサート)キー[ロックされます]
文字入力のモードを切り替えます。1回押すごとに、カーソル位置にある文字の前に挿入する「インサートモード」と、カーソル位置の文字に上書きする「タイプオーバーモード」が切り替わります。

❼Delete(デリート)キー
カーソル位置から右側の文字を削除します。カーソル位置は変わりません。

❽Back Space(バックスペース)キー
カーソル位置から、左側の文字を削除します。カーソル位置は左に動いていきます。

❾Tab(タブ)キー

文字を入力しているときにこのキーを押すと、タブが挿入されカーソルが右に移動します。[Shift]+[Tab]キーを押すと、一つ前のタブ位置まで戻りカーソルが左に移動します。また、表計算やデータベースなどのアプリケーションでは、次の項目への移動などに使われることもあります。

文字入力キーと組み合わせて、文字を入力するときに使います。

❿CpLK(キャップスロック)・英数キー【ロックされます】

アルファベットを入力するときの文字種を切り替えます。[Shift]キーと同時に1回押すごとに、「大文字モード」と「小文字モード」が切り替わります。また、ひらがな/カタカナモードからアルファベットや数字を入力する英数モードに切り替えるときにも使います。

⓫半角/全角キー【ロックされます】

文字を入力しているときの文字種を切り替えます。1回押すごとに、「半角モード」と、「全角モード」が切り替わります。また、[Alt]キーと同時に押すと「日本語入力モード」になります。

⓬Shift(シフト)キー

他のキーと同時に押すことで別の機能を実行したり、実行方法を一時的に変えたりすることができます。例えば、「大文字モード」で文字を入力しているときに、アルファベットキーと同時にこのキーを押すと、小文字で入力することができます。

空白を入れたり、漢字に変換するときなどに使います。

⓭無変換キー

かな漢字変換システムを使っているときに、入力した文字を漢字などに変換しないときに押します。

⓮変換キー

かな漢字変換システムを使っているときに、入力した文字を漢字などに変換するときに押します。

⓯カタカナ/ひらがなキー【ロックされます】

「カタカナモード」と「ひらがなモード」を切り替えます。「カタカナモード」のときはこのキーのみ、「ひらがなモード」のときは[Shift]キーと同時に押すと切り替わります。また、[Alt]キーと同時に押すと「ローマ字入力モード」と「かな入力モード」が切り替わります。

⓰スペースキー

文字を入力しているときにこのキーを押すと、スペース(空白)を入れることができます。

カーソルを動かしたりページをめくるのに使います。

⓱カーソルキー

通常、キーに表記されている三角印の方向にカーソルを移動するときに使います。また、[Fn]キーと同時に使うと、ページ切り替えキー(PgUp/PgDn)、Home(ホームクリア)キー、End(エンド)キーとして機能します。

他のキーと組み合わせて機能を実行するときに使います。組み合わせるキーと機能は使っているアプリケーションにより異なります。

⓲Fn(エフエヌ)キー

キーボード上に[ ]で表記されている機能を使うときに、そのキーと同時に押します。

⓳Ctrl(コントロール)キー

文字入力キーや他の制御キーと組み合わせて使うことにより特定の動作をさせることができます。

⓴Alt(オルト)キー

オルタネートキーともいい、文字入力キーや他の制御キーと組み合わせて使うことにより、特定の動作をさせることができます。

Fn(エフエヌ)キーと組み合わせて使うことにより、キーボードの機能やカーソルの動きを変えることができます。

㉑NumLk(ナンバーロック)キー【ロックされます】

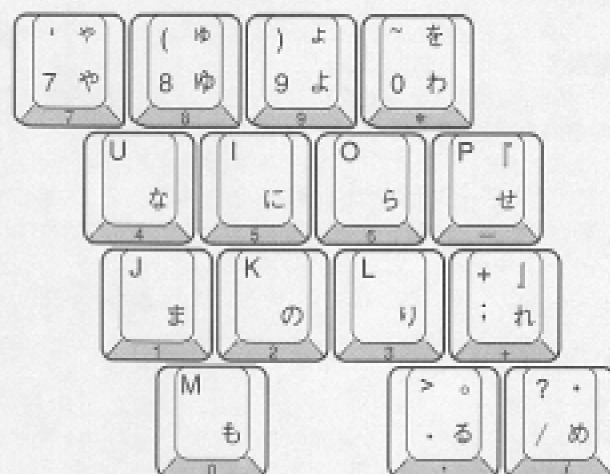
Fnキーと同時に押すと、キーボードの右半分の部分を数字キーとして使えるようになります。この状態をニューメリックキーパッドといいます。

㉒ScrLk(スクロールロック)キー【ロックされます】

キーを押したときの動作は各アプリケーションにより異なりますが、通常、Fnキーと同時に押すと、カーソルキーの動きを変えることができます。

テンキーを使って数字を入力する

通常、数字は英数モードのときにファンクションキーの下に並んでいるキーで入力することができますが、Fnキーと同時にNumLkキーを押すことにより、図の部分(ニューメリックキーパッド)でも数字を入力できるようになります。文字よりも数字の入力のほうが多いという場合などは、電卓のテンキーのように使うことができるので便利です。



Note 電源ONのままカバーを閉じると

サスペンド・レジュームが有効になっているときに、電源をONのままカバーを閉じると、約10秒後にサスペンド・レジューム状態に入ります。(→ 88ページ)

2 文字を入力する

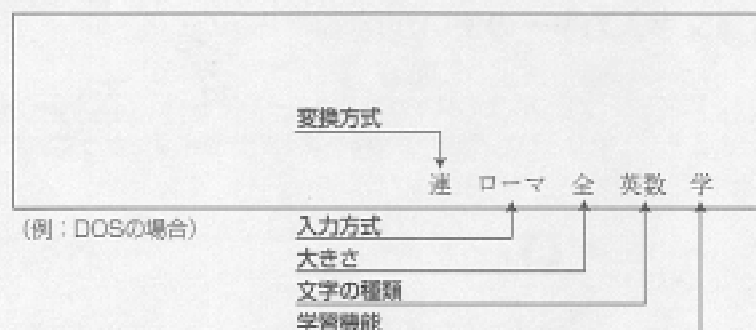
キーボードから文字を入力する方法について説明します。
なお、かな漢字変換システムにより表示内容などが異なります。ここでは、本製品にインストールされているMS-DOS Ver6.2/Vに付属されているかな漢字変換システムを例に説明しています。(画面表示は、DOS環境で使っている場合です。)

入力モードについて

電源をONにしてそのままの状態でキーボードから文字を入力すると、半角のアルファベット/カタカナ/数字と、キーボード上に表記されている記号だけしか入力することができません。全角の文字や漢字を入力するには、かな漢字変換システム(FEPやIME)を使う必要があります。

Alt キーと 半角/全角 漢字 キーを同時に押してください。

かな漢字変換システム(FEPやIME)が立ち上がると、画面の右下に変換方式や入力モードが表示されます。



(例：DOSの場合)

文字の種類と大きさ

入力できる文字の種類には「ひらがな」「カタカナ」「アルファベット」「数字」「記号」などがあります。また、文字には全角文字と、その半分の大きさの半角文字の2種類があります。
漢字を入力するには、まずひらがなを入力してから漢字に変換します。

	モード	画面表示	切替キー
文字種	ひらがな入力(あ)	かな	ひらがな
	カタカナ入力(ア)	カナ	Shift + カタカナ
	英数入力(A、123、&など)	英数	英数 (CpLK)
半角/全角	半角入力	半	半角/全角
	全角入力	全	半角/全角

＊ひらがなと漢字には全角文字しかありません。

かな入力とローマ字入力

かな入力は、入力するキーをそのまま押してひらがなや漢字を入力する方法です。たとえば、「か」を入力するときは[か]のキーをそのまま押します。
ローマ字入力は、ローマ字を入力して目的のひらがなや漢字を入力する方法です。たとえば、「か」を入力するときは[K]と[A]を続けて押すことで「か」が入力できます。

モード	画面表示	切替キー
ローマ字入力	ローマ	[Alt]+[ローマ字]
かな入力	なし	[Alt]+[ローマ字]

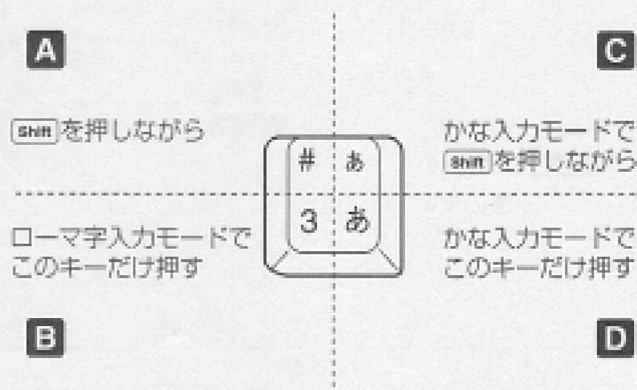
＊Windows上でかな入力とローマ字入力を切り替えるときは、[Ctrl]+[Shift]+[ひらがな]を同時に押します。

漢字の入力

かな漢字変換システム(FEPやIME)が立ち上がっているときは、ひらがなで入力してから、[変換]キーを押すと変換する漢字の候補が表示され、漢字に変換することができます。操作方法の詳細については、付属の「Microsoft Windows & MS-DOSユーザーズガイド」のMS IMEの項目をお読みください。

文字入力キーの使いかた

1つのキーに2つ以上の文字が割り当てられており、[CpLk][Shift][NumLk][ひらがな][カタカナ]の各キーと組み合わせて目的の文字を入力できるようになっています。



Word テンキーで数字を入力する

[Fn]キーと同時に[NumLk]キーを押すことにより、キーボード右半分のテンキーキーパッドを使って数字を入力することができます。

文字		画面表示	切替キー	入力キー
大きいひらがな(あ、い、う)				
カナ入力		かな	[ひらがな]	文字キー D
ローマ字入力		かな	[ひらがな]	文字キー A
小さいひらがな(っ、ゃ、ゅ、ょなど)				
カナ入力		かな	[ひらがな]	[Shift]+文字キー C
ローマ字入力		かな	[ひらがな]	文字キー A の前に[X]
大きいカタカナ(ア、イ、ウ)				
カナ入力		カナ	[Shift]+[カタカナ]	文字キー D
ローマ字入力		カナ	[Shift]+[カタカナ]	文字キー A
小さいカタカナ(ッ、ャ、ュ、ョなど)				
カナ入力		カナ	[Shift]+[カタカナ]	[Shift]+文字キー C
ローマ字入力		カナ	[Shift]+[カタカナ]	文字キー A の前に[X]
アルファベット小文字(a、b、cなど)*				
ローマ字入力		英数	[英数]	文字キー A
アルファベット大文字(A,B,Cなど)*				
ローマ字入力	1文字ずつ入力	英数	[英数]	[Shift]+文字キー A
	連続して入力	英数	[Shift]+[英数]	文字キー A
かな記号(。,、,・,「」など)				
カナ入力・ローマ字入力		かな	[ひらがな]	記号キー A B C
英記号(! ,@ ,# ,$,% ,^ ,& ,*など)*				
ローマ字入力		英数・かな・カナ		[Shift]+記号キー A B C
数字*				
ローマ字入力		英数・かな・カナ		数字キー B

*カナ入力の場合は、一旦ローマ字入力モードに切り替えてから入力します。

Note 大文字/小文字モードに固定するには

[英数]キーを押して、画面下のモード表示を「英数」にします。この状態で小文字固定モードになります。[Shift]を押しながら[英数]キーを押すとロックがかかり、大文字固定モードになります。

Note 1文字単位で大文字/小文字を切り替えるには

[Shift]キーを押しながらアルファベットキーを押すと、入力モードとは逆の文字を入力することができます。例えば、大文字モードで[Shift]キーと[A]を同時に押すと「a」を入力できます。

MEMO

第3章

Windowsとサウンド機能

インストールされているWindowsとMS Works、および本製品のサウンド機能とオーディオアプリケーションについて説明しています。

1 Windowsを使う

Windowsの基本的な操作方法と、本製品にあらかじめインストールされているソフトウェアについて説明します。

インストールソフトウェアについて

本製品のハードディスクには、すぐにWindowsの世界をお楽しみいただけるように「MS Windows3.1」(以下Windows)と統合ソフトウェアの「MS Works」、およびオーディオアプリケーションがインストールされています。

● Microsoft Works

ワードプロセッサ・表計算・データベース・通信の4つのツールが入っている統合ソフトウェアです。文書の作成をはじめとして、データの集計・計算・グラフ作成から、データの管理、パソコン通信まで、ほとんどの作業がこのソフトウェア1つで行なうことができます。詳しい使いかたについては、付属の「MS Worksユーザーズガイド」をお読みください。

●オーディオアプリケーション

音量や左右バランスを調整する〈ボリュームコントロール〉や、音声を録音・編集してWAVフォーマットファイルを作成する〈オーディオレコーダ〉、Windowsをより便利に楽しく使うことができる〈おしゃべり電卓〉〈おしゃべり時計〉など、本製品に搭載されているサウンド機能を有効に活用するためのアプリケーションです。
詳しい内容については、「オーディオアプリケーションを使う」(→57ページ)をお読みください。

Note　ポインタについて

Windowsを起動すると、画面の中央に矢印が表示されます。この矢印を「ポインタ」あるいは「マウスカーソル」と呼び、画面の中を自由に動かすことができます。
Windowsでは、文字を入力するとき以外のほとんどすべての操作を、ポインタでアイコンやメニューを選んで、それをクリックすることで行ないます。
本製品には、ポインタを動かすためにスティックポインタが装備されています。
スティックポインタの使いかたについては、「スティックポインタの使いかた」(→ 35ページ)で説明しています。

Windowsの使いかた

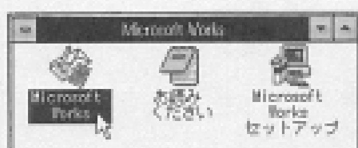
マウスなどを使って、アイコンなどをクリックするだけの簡単操作でアプリケーションを操ることができるシステムです。アプリケーションはウィンドウと呼ばれる枠の中で動作し、複数のウィンドウを開いて、ウィンドウ間での文字や画像のコピーも簡単にできます。

また、2つ以上のアプリケーションを同時に実行することも可能で、例えば、MIDIファイルを再生させて音楽を聴きながら、ワープロで文書を作成するというような使いかたもできます。

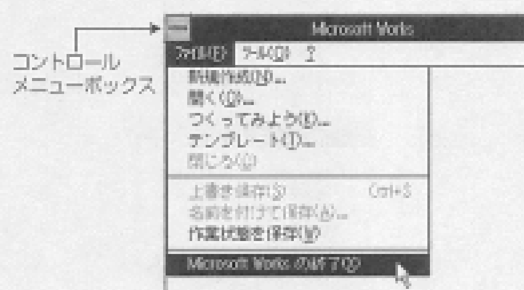
ここでは、アプリケーションの起動方法やウィンドウの動かしかたなどの基本的な操作方法について説明します。詳しい使いかたについては、付属の「Microsoft Windows&MS-DOSユーザーズガイド」や、お使いのアプリケーションのマニュアルをお読みください。

アプリケーションの起動と終了

起動するときは、各グループにあるアイコンにポインタを合わせて、左ボタンを2回押し(ダブルクリック)ます。



終了するときは、【ファイル】メニューから【終了】を選びます。左上のコントロールメニューボックスにポインタを合わせ、左ボタンを2回押し(ダブルクリック)で終了させることもできます。



Windowsを終了させるときは、「プログラムマネージャ」の【アイコン】から【Windowsを終了する】を選びます。

⚠注意 データを作成するアプリケーションを使っている場合は、終了させる前にデータを保存する作業が必要になります。

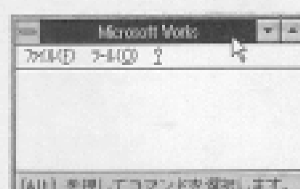
Note クリックについて

・ボタンを1回押すことを「クリック」といい、メニューなどを選択したりボタンを押すときに使います。
・ボタンを素早く続けて2回押すことを「ダブルクリック」といい、アイコンを選んでアプリケーションを起動するときや、なにかの処理を実行するときに使います。
ボタンは、キーボードの手前に左右2つ装備されています。

Note ドラッグについて

ボタンを押したまま、ポインタやカーソルを動かすことを「ドラッグ」といい、なにかを移動したり、グラフィックアプリケーションで線を引くときなどに使います。

ウィンドウを動かす

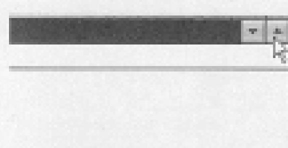


ウィンドウのタイトルバーにポインタを合わせて、左ボタンを押したままステックポインタを動かしたい方向に傾けます。

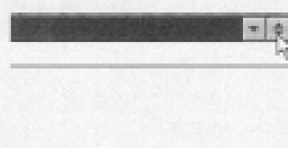
ウィンドウの大きさを変える/アイコンにする

ウィンドウ右上のボタンをクリックするとウィンドウを画面いっぱいに表示させたり、アイコン表示させることができます。

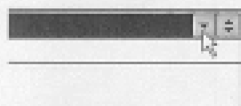
▲をクリック･･･ウィンドウを最大化



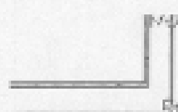
◆をクリック･･･元の大きさに戻す



▼をクリック･･･アイコンにする



ウィンドウの枠にポインタを合わせて、左ボタンを押したままステックポインタを動かしてドラッグさせると、ウィンドウの大きさを自由に変えることができます。
(最大化の状態では、変えることはできません。)



Word 最大化とは?

ウィンドウが画面いっぱいに表示されている状態。逆に、アイコンになっている状態を最小化といいます。

2 サウンド機能を使う

本製品には、16ビットサウンドブラスタPRO互換サウンド機能が搭載されており、音声を入出力するための端子も用意されています。また、サウンド機能を活用するためのオーディオアプリケーションもインストールされています。ここでは、これらの使いかたについて説明します。

内蔵スピーカについて

本体にはモノラルスピーカ(Lチャンネルのみ)が内蔵されています。このスピーカからは次の5種類の音源からの音声を出力することができます。
それぞれの音源は、オーディオアプリケーションの「ミキサー」を使ってミキシングすることもできます。

PCスピーカ	コンピュータに標準で装備されている"ビープ音"を発生する音声です。
PCカード	PCカードから発生する音声です。 音声出力機能を搭載しているPCカードを装着し、音声を出力する設定になっている場合のみ、スピーカから音声を出力できます。 (モデムカードなど)
デジタルサウンド機能*	16ビットDAコンバータを使用したサウンド回路からの再生音声、および、FMシンセサイザ音源から出力される音声です。
マイク入力	マイク入力端子に接続されたマイクからの音声です。
LINE IN入力*	LINE IN端子に接続された外部オーディオ機器からの音声です。

*外部スピーカを接続すると、ステレオで出力できます。

Note DOS環境で音量を調整するには

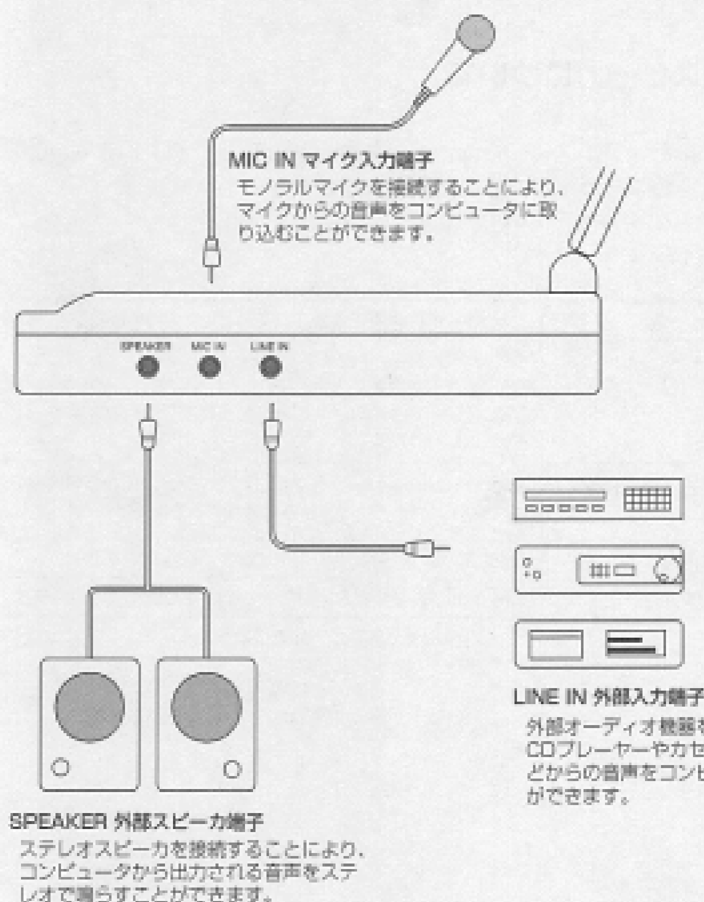
[Fn]キーと[F2]または[F3]キーを同時に押して音量を調整します。
[Fn]+[F2] 音量を上げる
[Fn]+[F3] 音量を下げる

Note Windowsで音量を調整するには

[オーディオアプリケーショングループ]にある、〈ボリュームコントロール〉を操作して調整します。また、音声のミキシングのコントロールは〈ミキサー〉で行ないます。
➔ 57ページ

マイクや外部オーディオ機器を接続する

本体の右側面には、マイクや外部スピーカ、オーディオ機器などを接続する端子が装備されています。すべてミニジャックになっていますので、ミニプラグが付いているオーディオコードをご用意ください。



Note PCスピーカとPCカードのミキシング

PCスピーカとPCカードからのサウンドは、一度、サウンドLSIのミキサー回路の"CD"左チャネルに入力され音量調節された後、スピーカに出力されます。
したがって"ボリュームコントロール"、"ミキサー"、"レコーディングコントロール"などの各アプリケーション上で"CD"チャネルの音量コントロールを変化させるとPCスピーカ、PCカードからのサウンドの音量も変化します。

オーディオアプリケーションを使う

本体のハードディスクには、サウンド機能を活用するために次のオーディオアプリケーションがインストールされています。



ボリュームコントロール	再生中の音量とステレオバランスを調整します。
オーディオレコーダ	音声を録音、編集し、WAVフォーマットのファイルに圧縮して記録することができます。また、WAV、AUDフォーマットのファイルを再生する機能もあります。
レコーディングコントロール	各音声ソースの録音時の音量やバランスを調整します。
ミキサー	各音声ソースの再生時の音量やバランスを調整します。
エクステンデッドレコーダ	長時間の音声を録音、圧縮してWAVフォーマットのファイルに記録することができます。
オーディオクリップライブラリ	各種のオーディオファイルをライブラリ化して管理することができます。
おしゃべり電卓	数字を音声で読み上げることができる電卓です。
おしゃべり時計	時間を音声で読み上げることができる時計です。
おしゃべりストップウォッチ	計測時間を音声で読み上げることができるストップウォッチです。
おしゃべりタイマー	残り時間を音声で読み上げることができるタイマーです。
チャイム	毎定時や設定した時刻にチャイムを鳴らすことができます。
オーディオリマインダ	音声により2通りのアラームを鳴らすことができます。

これらのアプリケーションはすべて[オーディオアプリケーショングループ]にあり、各アイコンをダブルクリックすると起動します。

操作方法については各オーディオアプリケーションのヘルプをお読みください。

ヘルプを読むには・・・

メニューバーに【ヘルプ】があるアプリケーションは、【ヘルプ】をクリックして表示される項目を選びます。

メニューバーに【ヘルプ】がないアプリケーションは、左上のコントロールメニューボックスをクリック(または[Alt]+[ ])して表示されるメニューから【ヘルプ】を選びます。



DOSでのサウンド機能

本製品のサウンド機能は、サウンドブラスタPRO(FMシンセサイザ機能を除く)と互換があります。
ゲームソフトなどのサウンド機能をサポートしているMS-DOS用のソフトウェアを使用する場合、サウンドの設定は、「サウンドブラスタ」または「サウンドブラスタPRO」を選択してください。
また、設定時には、I/Oポートアドレス、IRQチャネル、DMAチャネルが次の値に設定されているかどうか確認してください。(この設定を行なえないソフトウェアもあります)

	P90T	100T
I/Oポートアドレス	:220H	220H
IRQチャネル	:5	5
DMAチャネル	:0	3

第4章

システムを拡張する

PCカードの使いかたや、メモリやハードディスクを交換する方法、および外部周辺機器を接続する方法について説明しています。必要に応じてお読みください。

1 PCカードを使う

本体には、PCMCIA Ver2.0以降に準拠のPCMCIAカード(以下、PCカード)を装着するためのPCカードスロットを搭載しています。また、ハードディスクにはWindowsでPCカードの認識や各種の設定を行なうユーティリティ「Card Wizard」がインストールされています。ここでは、PCカードの装着方法とモデムカードとＬＡＮカードを使うときの注意事項などについて説明します。

PCMCIA規格について・・・

PCMCIAとは、Personal Computer Memory Card International Architectureの略で、ノートタイプのコンピュータなどに装着するICカードを、メーカーが異なっても共通で使用することができるように定められた統一規格で、一般に「PCカード」と呼ばれています。
ノート型パソコンに同じ規格のコネクタとスロットを設けて、様々な種類のカードを装着することでパソコンの機能を拡張できます。
カードには、メモリ、ハードディスク、モデム、SCSIインターフェイス、LANなど様々な種類があり、カードのサイズによっては2枚を同時に使うことも可能です。

また、PCカードを使うには、コンピュータにPCカードを認識させるためのデバイスドライバを組み込む必要があります。
本製品の場合、デバイスドライバは、すでに組み込まれていますので、PCカードをそのまま装着するだけで使うことができます。

カードサイズについて

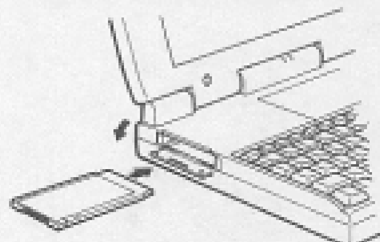
PCカードには、現在、TYPEⅠ(厚さ3.3mm)、TYPEⅡ(厚さ5.0mm)、TYPEⅢ(厚さ10.5mm)の3種類のタイプがあります。
本製品では、TYPEⅠまたはTYPEⅡのカードを2枚、またはTYPEⅢのカードを1枚装着することができます。

カードの抜き差し

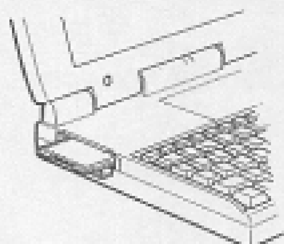
PCカードは、コンピュータの動作中でも抜き差しすることができます。
PCカードが装着されると、どんな種類のカードであるのかを自動的に認識し、すぐに使えるようになります。
なお、装着する前は、PCカードを利用するアプリケーションを実行しておいてください。例えば、モデムカードを使うときは、先に通信ソフトウェアを実行します。逆の順序では正しく動作しません。

カードを装着する

1 カードスロットカバーを図の方向に開けます。



2 カードスロットは上下2つあります。どちらかの空いているスロットに、PCカードのコンピュータ側に接続するコネクタが付いているほうを奥にして、ゆっくりと差し込みます。正しく装着されると、カードイジェクトボタンが飛び出します。



・TYPEⅢのカードの場合、スロット2(下)に差し込みます。
・PCカードは完全に装着された状態でも、1センチメートルほど本体から外に飛び出しています。無理に押し込まないようにしてください。

⚠注意 **異なる規格のカードを装着すると、物理的にシステムに損傷を与えるおそれがあります。必ずソーテックの推奨するPCMCIA準拠のカードをご使用ください。また、お買い求めの際は本製品に対応しているかどうかをご確認ください。**

Note ビープ音が鳴らないときは

パワーマネージメントのPCスピーカの設定がOFFになっています。(➔ 81ページ)

Note 装着されているカードを調べる

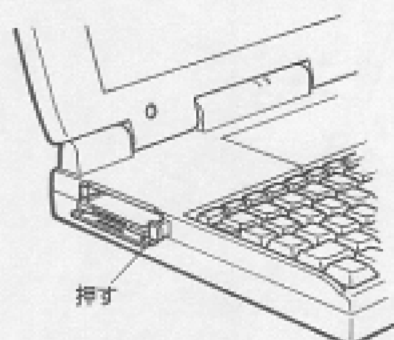
装着されているのが何のカードであるのかを調べるには2通りの方法があります。Windowsでは、[SystemSoft Toolsグループ]にある「Card Wizard」を起動し、メニューから【表示】-【カード情報】を選びます。また、DOS環境では、「CARDWIZ」ディレクトリにある「CARDINFO.EXE」を次のように実行します。
C:¥>CARDINFO↵

3 正しくカード用ドライバが組み込まれていれば、カードを差し込んだときにビープ音が1回鳴ってシステムがカードを認識します。

カードを取り外す

1 取り外したいカードが装着されている側の、カードイジェクトボタンを押します。

2 カードが少し飛び出しますので、ゆっくりと引き抜きます。
システムの動作中に、カードが取り外されたときは、ビープ音が2回鳴ります。



⚠注意 PCカードを取り外す前に、HDD/FDDアクセスランプが消えていることを確認してください。

Note PCカードを使わないとき

PCカードを使わないときは、CONFIG.SYSの中の「CARDWIZ」ディレクトリを指定している行の行頭に「REM」の文字を付けて、ドライバが組み込まれないようにしてください。メモリの消費量を節約できます。

```
REM DEVICE=C:¥CARDWIZ¥SSCIRRUS.EXE
REM DEVICE=C:¥CARDWIZ¥CS.EXE
            :
REM DEVICE=C:¥CARDWIZ¥CARDID.EXE
└ 付ける
```

モデムカードを使う

モデムカードを装着して電話回線をつなぐと、MS Worksの通信ツールを使ってデータの送受信を行なうことができます。また、FAX機能を搭載しているモデムカードとFAXアプリケーションがあれば、FAXの送受信も可能になります。

モデムカードは最大2枚まで装着することができ、装着された順番でそのモデムカードの設定値が決まります。

	COMポート番号	IRQ	メモリ
最初のモデムカード	2	3	2F8H
2枚めのモデムカード	3	10	3E8H

モデムを使ったアプリケーションの通信ポート、割り込みチャネル(IRQ)を設定する場合は、上記の説明にあわせて行ってください。

システムスタート時のメッセージ

システムのスタート時に以下のような警告メッセージが表示されますが、これはエラーではありません。

```
SystemSoft Plug-N-Play Card Services Allocation Utility Version 2....
Copyright 1993 SystemSoft Corporation. All Rights Reserved.
WARNING: Conflict detected with IRQ(s) starting at IRQ3
Verify and change the contents of CSALLOC.INI and reboot.
```

MS Worksの通信ツールを使うときの注意

MS Worksの通信ツールとモデムカードを使って通信を行う場合には、次の点に注意してください。

・モデムカードは、MS Worksを起動する前に装着してください。
MS Worksが起動してからモデムカードを装着しても、認識されません。

・MS Worksの通信ツールのデフォルトポートはモデムカードの1枚目、つまりCOM2に設定されています。COM2以外の設定をデフォルトで使用したい場合は、【ツール】、【環境設定】の通信の設定を、現在のCOM2から希望するポートに切り替えてください。

・【設定】の【モデムの設定】を実行する場合に、MS Worksのヘルプ "いっしょにやってみよう "を開くと、PCMCIAのエラーメッセージが正しく表示されないことがあります。このような場合には、あらかじめ" いっしょにやってみよう "を閉じてからモデムの設定を実行してください。

・MS WorksはCOM1からCOM4の各通信ポートにスキャンを行います。この場合、PCMCIA通信ポートに割り当てられているCOM2からCOM4でPCMCIA通信ポートが存在しない旨のエラーメッセージが何回か発生します。

LANカードを使う

LANカードを装着し、ネットワーク環境で使うことを可能にするソフトウェアをインストールすると、本製品をLANにつなぐことができます。

LANカードは、最大2枚まで装着することができます。装着された順番でそのLANカードの設定値が決まります。

	I/Oアドレス	IRQ	メモリ1	メモリ2
最初のLANカード	300H	10	D4000H	D6000H
2枚めのLANカード	310H	5	D8000H	DC000H

お使いになるLANカードによっては、独自にメモリ設定、認識方式が決められています。この場合、カード認識用ドライバをインストールしてCONFIG.SYSを書き換えたり、EMM386メモリマネージャに専用の設定を行う作業が必要になります。
LANカードに付属されているマニュアルをお読みの上、これらのインストールと設定を行なってください。

P90Tモデルをお使いの場合、システムコンフィグレーションの「Power」の項目はすべて「Always on」に設定しておくことをお勧めします。

Card Wizardについて

本体のハードディスクには、PCカードを使いやすくするためのユーティリティ「Card Wizard」がインストールされています。
「Card Wizard」には次のような機能があります。



● **PCカードスロット情報の表示**
PCカードスロットに装着されているカードの種別や各種の設定値が確認できます。

● **PCカード設定状況の表示と設定**
PCカードが使用しているI/Oアドレス、IRQやメモリなどの設定値を表示させたり、設定を変更することができます。また、不適切な設定により正しく動作しない場合も、状況を確認することにより問題の解決が図れます。

● **PCカードの抜き差しの自動認識**
PCカードの抜き差しを自動的に認識し、そのカードを使えるように設定します。また、抜き差し時にメッセージを表示させたりサウンドを鳴らすこともできます。

● **PCカード挿入時のアプリケーション自動起動**
PCカードとアプリケーションを関連づけておくことができます。PCカードが挿入されると、それに関連づけられているアプリケーションを自動的に起動させることができます。(例:モデムカードを挿入すると通信ソフトが起動)

「Card Wizard」の使用方法については、ヘルプファイルに詳しく書かれています。[System Soft Tools グループ]にある[Card Wizard Help]アイコンをダブルクリックし、ヘルプファイルを開いてお読みください。

Word I/Oアドレス

CPUが周辺機器とデータのやり取りをするために使用するチャネルです。いくつかの番地が割り当てられており、複数の周辺機器を使っている場合は、設定値が重ならないようにする必要があります。

Word IRQ

周辺機器がCPUに対して割り込みを要求するためのチャネルです。
いくつかの番地が割り当てられており、複数の周辺機器を使っている場合は、設定値が重ならないようにする必要があります。

2 メモリを増設する

本製品には、8MBのシステムメモリがマザーボード上に装着されていますが、拡張RAMモジュールを増設することにより最大40MBまでのメモリが使えるようになります。

⚠注意 拡張RAMモジュールは、本モデル専用のものしか使用することができません。他のモデルの拡張RAMモジュールを使用すると正しく動作しませんのでご注意ください。また、弊社製WinBook用の拡張RAMモジュールも使用できません。

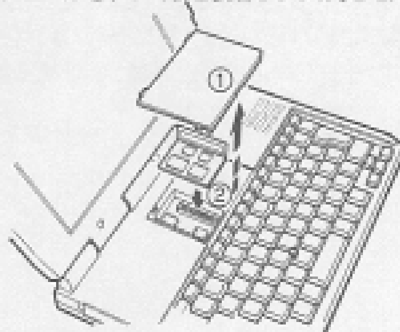
拡張RAMモジュールの装着

本製品には、4MB・8MBもしくは16MBタイプの拡張RAMモジュールを2枚まで装着できます。

⚠注意 装着の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてACアダプタとバッテリを取り外してください。また、サスペンド・レジュームが有効になっている状態で装着することはできません。この場合、パワーマネージメントで電源スイッチの機能をON/OFFに設定してください。(➜ 88ページ)

1 本体上面の拡張RAMエリアのカバーを開けます。

2 拡張RAMモジュールをゆっくりと装着します。向きを間違えないようにしてください。



Note 異なる容量のモジュールを装着するときは

4MB拡張RAMモジュールを他のサイズのモジュールと共に追加する場合は、必ず4MB拡張RAMモジュールを上にして装着してください。下に装着した場合は正しいメモリ容量を得ることができません。

3 拡張RAMエリアのカバーを閉めます。

4 電源をONにすると、RAM容量が装着前と異なるためにエラーメッセージが表示されます。

5 Ctrl+Alt+Sを同時に押して、システムコンフィグレーションメニューを表示させます。

6 システムが装着された拡張RAMモジュールの容量を読み込み、自動的に設定が行なわれます。

7 システムコンフィグレーションメニューを終了させます。

100T
F10キーを押してから、Escキーを押します。

P90T
【Exit】-【Save and Reboot】を選びます。

システムコンフィグレーションメニューの詳しい操作方法については、「第5章 システムの設定を変える」(➔ 73ページ)をお読みください。

3 ハードディスクドライブを交換する

本製品には、ソフトウェアインストール済みの内蔵ハードディスクドライブが装着されていますが、このハードディスクドライブを取り外してソーテック純正の別のハードディスクに交換することができます。
使用したいアプリケーションやデータが増えて現在の容量では足りなくなったり、アプリケーション別にハードディスクを用意して、そのアプリケーションを使うときだけ取り替えるといった使いかたができます。

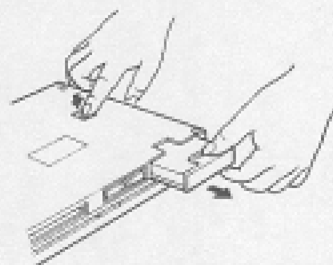
⚠注意 ハードディスクドライブを落としたり乱暴に扱うなどして衝撃を与えないでください。また、振動が激しいところや磁気を発生するもの(テレビやスピーカ)の近くに置かないでください。

ハードディスクを取り外すには

⚠注意 交換の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてACアダプタとバッテリを取り外してください。また、サスペンド・レジュームが有効になっている状態で取り外すことはできません。この場合、パワーマネージメントで電源スイッチの機能をON/OFFに設定してください。(→ 88ページ)

1 本体底面のHDDカートリッジ取り出しボタンをしっかり押し込みます。

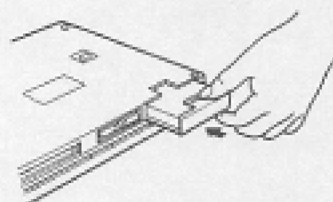
2 もう一方の手でハードディスク下部の前面を持ちながら、ゆっくり引き出します。このときドライブを落とさないように注意してください。



ハードディスクを取り付けるには

⚠注意　交換の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてACアダプタとバッテリを取り外してください。また、サスペンド・レジュームが有効になっている状態で取り付けることはできません。この場合、パワーマネージメントで電源スイッチの機能をON/OFFに設定してください。(→ 88ページ)

1 向きを間違えないように、ゆっくりと押し込みます。ハードディスクは、図に示すような方向にしか装着できません。簡単に入らないときは向きが間違っています。無理に押し込まずに、もう一度正しい向きに入れ直してください。



2 正しく装着されたら、HDDカートリッジ取り出しボタンが引っ込みます。

3 電源をONにすると、環境が装着前と異なるためにエラーメッセージが表示されます。

4 Ctrl+Alt+Sを同時に押して、システムコンフィグレーションメニューを表示させます。

5 システムが装着されたハードディスクの環境を読み込み、自動的に設定が行なわれます。

Note 出荷時に装着されているドライブの内容

本製品に搭載されているハードディスクドライブは、フォーマット(初期化)が済んだ状態になっています。ハードディスクドライブは、¥DOS、¥Windowsと名付けられたサブディレクトリが作成され、各種のアプリケーションやプログラムがすでにインストールされています。

6 システムコンフィグレーションメニューを終了します。

100T
[F10]キーを押してから、[Esc]キーを押します。

P90T
【Exit】-【Save and Reboot】を選びます。

システムコンフィグレーションメニューの詳しい操作方法については、「第5章 システムの設定を変える」(➔ 73ページ)をお読みください。

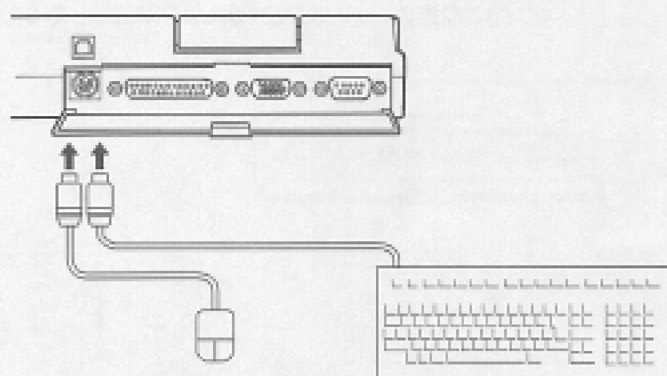
Note 新しいハードディスクを使うときは

新しいハードディスクドライブを使うにはフォーマット(初期化)する必要があります。MS-DOSでは、FDISKコマンドを使ってMS-DOS領域と拡張MS-DOS領域を作成し、FORMATコマンドでドライブを実際に使えるように認識させます。詳しい方法については、付属の「Microsoft Windows&MS-DOSユーザーズガイド」をお読みください。

4 外部キーボードやマウスを接続する

本製品には、外部キーボード・テンキーパッドやマウスを接続するためのコネクタが装備されています。このコネクタには、PS/2用のキーボードとマウスを接続することができます。

⚠注意 **接続の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてください。また、サスペンド・レジュームが有効になっている状態で装着することはできません。この場合、パワーマネージメントで電源スイッチの機能をON/OFFに設定してください。(➔ 88ページ)**



本体背面の右側にある外部キーボードコネクタに、外部キーボード・テンキーパッドのケーブル、もしくは、マイクロソフトPS/2マウスを接続します
接続されたキーボード・テンキーパッドとマウスは、コンピュータの電源をONにしたときに自動的に認識されます。

使用時の注意

PS/2マウスを直接外部キーボードコネクタに接続した場合、内部スティックポインタは自動的に使えなくなります。また外部キーボード・マウスアダプタを使用してPS/2マウスを接続した場合は、内部スティックポインタとPS/2マウスを同時に使うことができます。
また、PS/2マウスでも一部のメーカーの製品では、サスペンド・レジューム、およびスティックポインタとの同時使用に対応しているものがあります。対応していない製品を使っているときにサスペンド・レジューム状態に入ると、マウスカーソル(ポインタ)が動かなくなったり入力操作ができなくなります。

Note 外部キーボードとマウスを同時に使う

別売りのキーボード・マウス接続アダプタを接続すると、PS/2マウスとPS/2外部キーボードを同時に接続できます。なお、IBM製の接続アダプタをお使いの場合は、キーボードとマウスの表示が逆になります。キーボードの表示側にはマウス、マウスの表示側にはキーボードを接続してください。

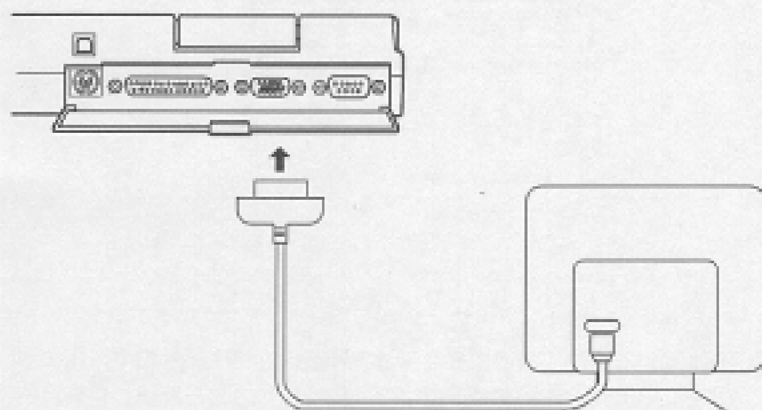
Note 外部テンキーパッドを使う

外部テンキーパッドをご使用の場合は、弊社テクニカルサポートセンタへお問い合わせください。また、ご使用のときは Fn + NumLk キーを押してテンキーモードにしてください。このとき、本体キーボードもテンキーモードになるため通常のキー入力はできません。

5 外部モニタを接続する

本製品には、外部モニタを接続するためのコネクタが装備されています。このコネクタに、VGA対応のディスプレイやマルチスキャンディスプレイを接続すると、1024×768ドットの解像度で表示できるようになり、Windowsをより広い画面で快適に使うことができます。

⚠注意　接続の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてください。また、サスペンド・レジュームが有効になっている状態で装着することはできません。この場合、パワーマネージメントで電源スイッチの機能をON/OFFに設定してください。(→ 88ページ)



コンピュータの背面にある外部CRTコネクタに、外部モニタのケーブルを接続します。システムコンフィグレーションメニューのVGAのLCD/CRT設定がCRTまたはBOTHの場合は、コンピュータの電源を入れることにより、自動的に接続されたディスプレイに表示することができます。LCD設定になっている場合はシステムコンフィグレーションメニューにてLCDまたはBOTHの設定にしてください。

システムコンフィグレーションメニューの詳しい操作方法については、「第5章 システムの設定を変える」(→73ページ)をお読みください。

Note　一時的に表示ディスプレイを切り替える

[Fn]+[F1]を1回押すごとに、LCDのみ→CRTのみ→LCD・CRT同時の順に切り替わります。

第5章

システムの設定を変える

システムコンフィグレーションを使ってシステムの設定を変える方法や、パワーマネージメント機能の設定を変える方法について説明しています。

1 システムコンフィグレーションの設定

本製品では、コンピュータの動作状態や環境設定があらかじめコンピュータの中に記憶されており、電源をONにしたときに読み込まれるようになっています。ここでは、これらの設定を変える方法について説明します。

システムコンフィグレーションについて

システムコンフィグレーションとは、コンピュータの動作状態や環境設定を設定したり、現在の設定を確認するためのプログラムです。

ここでは、次のような設定が行なえます。

・カレンダの日付と時間を設定する(→ 78ページ)
・起動方法と起動ドライブを設定する(→ 78ページ)
・ディスプレイモードを設定する(→ 78ページ)
・パスワードを設定する(→ 79ページ)
・キャッシュメモリを使うかどうか設定する(→ 79ページ)
・フロッピーディスクドライブを使うかどうか選択する<100T>のみ(→ 79ページ)
・ハードディスクドライブの環境を設定する(→ 79ページ)
・COMポートを選択する(→ 80ページ)
・プリンタポートと動作モードを選択する(→ 80ページ)
・キーボードの動作を設定する(→ 80ページ)
・起動時にキーボードのナンバーロックを有効にする〈P90Tのみ〉(→ 80ページ)
・スティックポインタを使うかどうか選択する(→ 81ページ)
・サウンド機能を使うかどうか選択する(→ 81ページ)
・スピーカから音を鳴らすかどうか選択する(→ 81ページ)
・システムコンフィグレーション画面の色を変更する〈P90Tのみ〉(→ 81ページ)
・メニューを簡易化する〈P90Tのみ〉(→ 81ページ)
・設定をデフォルト状態に戻す(→ 81ページ)
・デフォルト値をリストアする〈P90Tのみ〉(→ 81ページ)
・システムコンフィグレーションのバージョン情報を表示する〈P90Tのみ〉(→ 81ページ)

⚠注意 システムコンフィグレーションを終了させると、設定した内容を有効にするために自動的にシステムが再起動されます。このとき、メモリ上に存在していたすべてのプログラムやデータは消失しますので、システムコンフィグレーションで設定を変える前には、必ず現在のデータをセーブしておいてください。

メニューと操作方法について

システムコンフィグレーションのメニューと操作方法は、お使いのモデルにより異なります。

メニューを表示させるには…

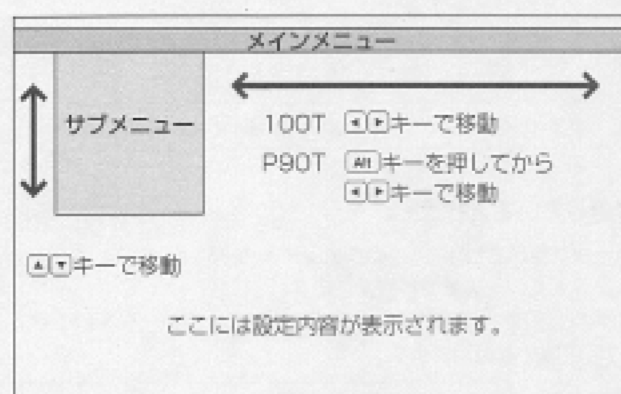
システムコンフィグレーションは、メモリに常駐しているプログラムです。
このプログラムを起動させるには、MS-DOSのプロンプト(C:¥>)が表示されている状態で[Ctrl]と[Alt]と[S]キーを同時に押します。

Windowsが起動している状態からは、システムコンフィグレーションの設定は行なえません。必ずWindowsを終了させてからこの操作を行なってください。

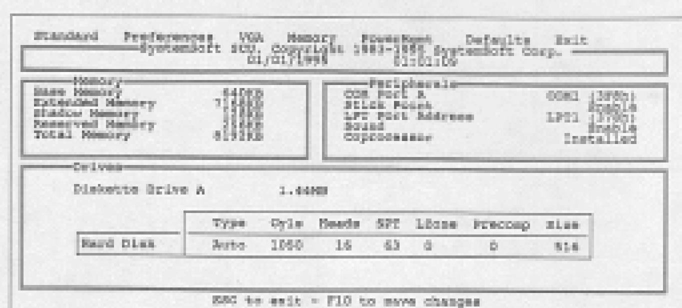
操作方法は…

画面の一番上にはメインメニューがあり、下には現在の設定状態の一覧が表示されています。設定項目はメインメニューを選んで[▼]キーを押すとプルダウン式に表示されるサブメニューから選択します。反転表示されている部分が現在選択されている項目です。

WinBookPro100T ――→ 76ページ
WinBookProP90T ――→ 77ページ



WinBook Pro 100T(画面の設定値は例です。)



・メインメニューを選択するには	[◀][▶]キーでカーソル(反転部分)が移動します。
・サブメニューを選択するには	[▲][▼]キーでカーソル(反転部分)が移動します。
・メニュー項目や設定を確定するには	[↵]キーを押します。
・設定を変更せずに元に戻るときは	[Esc]キーを押します
・有効にする項目を選択するには	[▲][▼]キーで有効[×]の項目が移動します。
・有効にした項目の詳細を設定するには	[↵]を押します。
・サブメニュー内で有効・無効を設定するには	[↵]でチェックマーク(√)の表示(有効)、非表示(無効)を切り替えることができます。
・機能を使用しない設定にするには	【Always On】【Disable】【None】を選択します。
・終了するには	メインメニューから【Exit】を選ぶか、[Esc]キーを押します。

《設定を変更していないときは》

次のメッセージが表示されます。このまま[Esc]キーを押すと、システムコンフィグレーションを終了します。その他のキーを押すと、続けて設定を変更できます。

```
ESC to exit now        Any other key to continue
```

《設定を変更しているときは》

次のメッセージが表示されます。このまま[↵]キーを押すと、変更された設定がメモリに記憶されてシステムコンフィグレーションが終了します。
[Esc]キーを押すと、設定を変更せずにシステムコンフィグレーションを終了します。その他のキーを押すと、続けて設定を変更できます。

```
Do you wish to save your changes?
ESC to exit - ENTER to save and exit
Any other key to continue
```

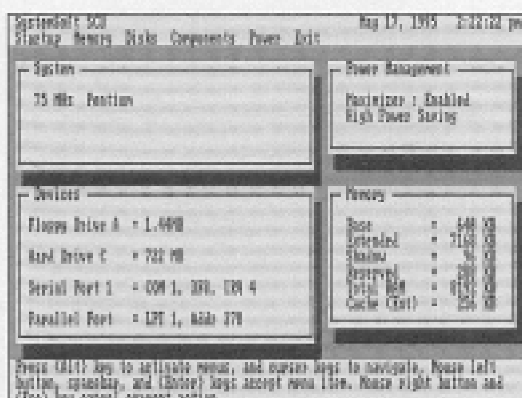
Note 100Tで設定の記憶だけ行なうときは

[F10]キーを押すと、変更された設定がメモリに記憶されます。このとき、システムコンフィグレーションは終了されません。

Note パワーマネージメントを呼び出すには

システムコンフィグレーションを起動させている状態からパワーメネージメントを呼び出すには、メインメニューの【Power Mgmt】を選びます。

WinBook Pro P90T
（画面の設定値は例です。）



- ・メインメニューを選択するには……………… [Alt]キーを押してから、[◄][►]キーでカーソル(反転部分)が移動します。
- ・サブメニューを選択するには……………… [▲][▼]キーでカーソル(反転部分)が移動します。
- ・項目を移動するには……………… [Tab]キーを押します。
- ・メニュー項目や設定を確定するには……………… [↵]キーを押します。
- ・設定を変更せずに元に戻るときは……………… [Esc]キーを押します
- ・サブメニュー内で有効・無効を設定するには… [　　]キーでチェックマーク(√)の表示(有効)/非表示(無効)を切り替えることができます。
- ・項目内で有効・無効を設定するには……………… [▲][▼]キーで移動し、[　　]キーでマーク[●]の表示(有効)、非表示(無効)を切り替えることができます。
- ・機能を使用しない設定にするには……………… 【Always On】【Disable】【None】を選択します。
- ・終了するには……………… メインメニューから【Exit】を選ぶとサブメニューが表示されます。また、[Esc]キーを押すことで、【Save and Exit】を選択した状態に移ることができます。

《設定を変更して終了させるときは》

【Save and Exit】を選択して[↵]キーを押すと、次のメッセージが表示されます。
もう一度[↵]キーを押すと、変更された設定がメモリに記憶されてシステムコンフィグレーションが終了します。[Esc]キーを押すと、続けて設定を変更できます。

```
Press <OK>to save the current setup parameters to CMOS RAM and Exit
the SCU
```

《設定を変更して再起動させるときは》

【Save and Reboot】を選択して[↵]キーを押すと、次のメッセージが表示されます。
もう一度[↵]キーを押すと、変更された設定がメモリに記憶されてシステムコンフィグレーションが終了し、システムを再起動します。[Esc]キーを押すと、続けて設定を変更できます。

```
Press <OK>to save the current setup parameters to CMOS RAM. The
computer will be rebooted!!!
```

《設定を無効にして終了させるときは》

【Exit(No Save)】を選択して[↵]を押し、もう一度[↵]を押すと変更された設定が記憶されずにシステムコンフィグレーションを終了します。

各種の設定を行なう

選択するメニューはモデルにより異なります。
なお、選択項目はメインメニュー、サブメニューの順に表記しています。

● カレンダの日付を設定する

100T　　【Standard】-【Date】
P90T　　【Startup】-【Date and Time】

現在設定されている日付が表示されますので、項目を移動して数字キーで日付を入力します。数字は、100Tでは月/日/年、P90Tでは日/月/年の順番で並んでいます。

● カレンダの時間を設定する

100T　　【Standard】-【Time】
P90T　　【Startup】-【Date and Time】

現在設定されている時刻が表示されますので、項目を移動して、数字キーで時間を入力します。数字は時/分/秒の順番で並んでいます。

● 起動方法を設定する

100T　　【Preferences】-【QuickBoot】
P90T　　【Startup】-【FastBoot】

クイックブート/ファーストブートを設定すると、メモリテストを行なわずに起動します。この場合、システムの立ち上げが速くなります。

● 起動ドライブを設定する

100T　　【Preferences】-【FirstBoot】
P90T　　【Startup】-【Boot Device】

起動するドライブを、フロッピーディスク、ハードディスク、PCカードのうちのいずれかから選択します。

● ディスプレイモードを設定する

100T　　【VGA】-【DisplayMode】
P90T　　【Startup】-【VideoSelect】

BOTHを選択するとCRTとLCDを同時に表示します。LCDはLCDのみ、CRTはCRTのみを表示します。

Note　起動ドライブについて

デフォルトでは、ドライブA(フロッピーディスクドライブ)にMS-DOSのシステムがあればそこから起動し、システムがなければドライブCのハードディスクから起動する設定になっています。

● パスワードを設定する

100T 【Preferences】-【Boot Password】システム起動時
100T 【Preferences】-【SCU Password】システムコンフィグレーション起動時
P90T 【Startup】-【Password】
Enable Password for Boot-up システム起動時
Enable Password for SCU Changes システムコンフィグレーション起動時

システム起動時、またはシステムコンフィグレーション起動時にパスワードを入力させることができます。
いずれの場合も、パスワードに使用できるのは英、数字のみで、4文字から8文字の長さで設定します。
パスワードの入力を間違った場合は3回まで再入力できます。3回とも間違えた場合は、システムが再起動されます。

100T
```
Enter your BOOT PASSWORD
```

P90T
```
Enter Password:_______
```

⚠注意 パスワードはメモを取るなどして忘れないようにしてください。忘れた場合は、ソーテックテクニカルサポートセンターまでご連絡ください。

● キャッシュメモリを使うかどうか設定する

100T 【Memory】-【Cache Enable】
P90T 【Memory】-【L1 Cache Enable】 1次キャッシュ
P90T 【Memory】-【L2 Cache Enable】 2次キャッシュ

特に必要がない限りキャッシュは有効にしてください。キャッシュを無効にするとシステムの処理スピードが遅くなります。

● フロッピーディスクドライブを使うかどうか選択する(100Tのみ)

100T 【Standard】-【Diskette Drive】

フロッピーディスクドライブを使用しない場合は【None】を選択してください。

●ハードディスクドライブの環境を設定する

100T 【Standard】-【Hard Disk】
P90T 【Disks】-【Hard Disk】

ハードディスクドライブのディスクタイプなどを設定することができます。
ハードディスクドライブを交換した場合は、この項目を選択して設定を読み込ませる必要があります。また、「Disk Type」は常に「Auto」(100T)・「Auto-ID」(P90T)に設定しておかなくてはなりません

⚠注意 「Auto」「Auto-ID」以外の設定にすると正常に動作しなくなります。また、シリンダやヘッドなどの項目は不用意に変更しないでください。

● COMポートを選択する

100T　【Standard】-【COM Port A】
P90T　【Components】-【COM Ports】
通常はCOM1(3F8h)に設定しておきます。使用するアプリケーションにより、変更が必要なときはCOM1からCOM4の間で任意に設定できます。

100T　【PowerMgmt】-【Contorols】-【High Speed Com Port】
シリアルポートにて9600BPS以上の高速なモデムなどを使用する場合、この設定を有効にしてください。

● プリンタポートと動作モード(P90T)を選択する

100T　【Standart】-【LPT Port Address】
P90T　【Components】-【LPT Port】　ポートの設定
P90T　【Components】-【LPT Type】　動作モードの設定
通常はLPT1(378h)に設定しておきます。使用するアプリケーションにより、変更が必要なときは任意に設定できます。(P90TはLPT1～2、100TはLPT1～3)P90Tの場合は、動作モードは通常「Bidirectional(PS-2)」にしておきます。

● キーボードの動作を設定する

100T　【Preferences】-【Typematic Rate】
100T　【Preferences】-【Typematic Delay】
P90T　【Components】-【Keyboard Repeat】
キーボードのオートリピートの間隔やオートリピートが始まるまでの遅延時間を設定できます。間隔は30文字/秒(30CPS)から2文字/秒(2CPS)の範囲で設定できます。遅延時間は、250ミリ秒・$^{1}/_{4}$秒(250ms)から1000ミリ秒・1秒(1000ms)までの範囲で設定できます。

●起動時にキーボードのナンバーロックを有効にする(P90Tのみ)

P90T　【Components】-【Keyboard Numlock】
システム起動時にキーボードのナンバーロック機能を有効にします。最初からテンキーパッドを使うときは有効にしておきます。

Word オートリピート

ほとんどのキーは、押し続けることで連続してその機能を実行したり、文字を入力することができます。このように、何度も続けて押したときと同じ状態になることを「オートリピート」といいます。

● スティックポインタを使うかどうか選択する

100T　【Standard】-【StickPoint】

P90T　【Components】-【StickPointer】

外部シリアルマウスを使用するために、内部スティックポインタの使用を無効にすることができます。

● サウンド機能を使うかどうか選択する

100T　【Standard】-【Sound】

P90T　【Components】-【Sound Chip】

PCカードスロットに別のサウンドカードまたは弊社製MMU-2000を接続するときは、この設定を無効にします。

● スピーカから音を鳴らすかどうか選択する

100T　【PowerMgmt】-【Controls】-【PC Speaker Enable】

P90T　【Components】-【Speaker】

チェックマークが付いているとスピーカから音が出ます。

なお、この機能で制御できるのはPCスピーカ（ビープ音）とPCカードからの音のみです。

● システムコンフィグレーション画面の色を変更する（P90Tのみ）

P90T　【Startup】-【Configure SCU】-【ColorScheme】

色の設定は Default Colors/Alternate Colors/Monochrome/Inverse Mono の4種類から選択します。

● メニューを簡易化する（P90Tのみ）

P90T　【Startup】-【Configure SCU】-【Easy Menus】

メニューを簡易化させて表示します。

● 設定をデフォルト状態に戻す

100T　【Defaults】

P90T　【Exit】-【Defaults Settings】

各項目の設定値をデフォルトに戻します。

各項目のデフォルト値は次ページのとおりです。

● デフォルト値をリストアする（P90Tのみ）

P90T　【Exit】-【Restore Settings】

システムコンフィグレーションのデフォルト値をリストアします。

● システムコンフィグレーションのバージョン情報を表示する（P90Tのみ）

P90T　【Exit】-【Version Info】

システムコンフィグレーション(BIOS)のバージョンおよび作成日付が表示されます。

100T

メニュー	サブメニュー	デフォルト設定値	説明
Standard	Date	No effect	デフォルトはありません
	Time	No effect	デフォルトはありません
	COM PORT A	COM1(3F8h)	シリアルポートはCOM1設定
	StickPointer	Enable	スティックポインタは使用できる状態
	LPT Port Address	LPT1(378h)	プリンタポートはLPT1設定
	DisketteDrive	1.44MB	FDDは1.44MB
	HardDisk1	Auto	自動設定
	Sound	Enable	内部サウンド機能を使います
Preferences	QuickBoot	Not Quick Boot	メモリテストを実行します
	NumLock	Not NumLock	NUMロックオフ
	BootSpeed	High	速いスピード
	TypematicRate	10CPS	10文字/秒
	TypematicDelay	500mS	0.5秒
	BootPassword	Disabled	なし
	SCUPassword	Disabled	なし
	FirstBoot	DriveA	フロッピーから最初にブート
VGA	DisplayMode	LCD	LCDにのみ表示
Memoly	CacheEnable	Enable	CPUキャッシュオン

P90T

メニュー	サブメニュー	デフォルト設定値	説明
Startup	Date and Time	No effect	デフォルトはありません
	Fast Boot	Not Fast Boot	メモリーテストを実行します
	Boot Device	Diskette A	フロッピーから最初にブート
	Video Select	LCD	LCDにのみ表示
	Password	Password Disabled	なし
	Configure SCU	Default Colors	
	-	Complete Menus	
Memory	L1 Cache Enable	Enable	CPUキャッシュオン
	L2 Cache Enable	Enable	外部キャッシュオン
Disks	HardDisk	Auto-ID	自動設定
Components	COMPorts	COM1(3F8h)	シリアルポートはCOM1設定
	LPT Potrs	LPT1(378h)	プリンタポートはLPT1設定
	LPT Type	Bidirectional(PS-2)	
	Keyboard Numlock	Not Num Lock	NUMロックオフ
	Keyboard Repeat	Typematic Rate	10CPS 10文字/秒
	-	Typematic Delay	500mS 0.5秒
	StickPointer	Enable	スティックポインタは使用できる状態
	Sound	Enable	内部サウンド機能を使います
	Speaker	Enable On	PCスピーカ出力オン
Power	Enable Power	Saving Enable	パワーセーブを行なう
	Battery Only	Disabled	
	Low Power Saving	Disable	
	High Power Saving	Enable	
	Customize	No effect	デフォルトはありません
	Suspend Switch	Disabled	サスペンドスイッチとして機能
	Suspend Controls	-	Suspend Timeout:never
	-	-	Alarm Resume:Disabled
	-	-	(時刻設定レジューム禁止)
	Cover Switch	Suspend	サスペンドを行なう

2 パワーマネージメントの設定

本製品には、電力の消費を抑えるためのパワーセービング機能や、アプリケーションの実行中に電源をOFFにすると現在の状態をメモリに保存するサスペンド・レジューム機能が搭載されています。ここでは、これらの設定を行なう方法について説明します。

パワーマネージメントについて

パワーマネージメントとは、パワーセービング機能やサスペンド・レジューム機能を設定したり、現在の設定を確認するためのプログラムです。

ここでは、次のような設定が行なえます。

- ・パワーセービング機能を設定する(→ 86ページ)
- ・サスペンド・レジューム機能を設定する(→ 88ページ)
- ・カバーを閉じたときの動作を設定する(→ 89ページ)
- ・ビデオモニタリングを設定する(→ 89ページ)
- ・設定をデフォルト状態に戻す<100Tのみ>(→ 89ページ)

⚠注意 パワーマネージメントを終了させると、設定した内容を有効にするために自動的にシステムが再起動します。このとき、メモリ上に存在していたすべてのプログラムやデータは消失しますので、パワーマネージメントで設定を変える前には、必ず現在のデータをセーブしておいてください。

メニューと操作方法について

パワーマネージメントのメニューと操作方法は、お使いのモデルにより異なります。

メニューを表示させるには…

パワーマネージメントは、メモリに常駐しているプログラムです。
このプログラムを起動させるには、MS-DOSのプロンプト(C:¥>)が表示されている状態で[Fn]と[Esc]キーを同時に押します。
Windowsが起動している状態からは、パワーマネージメントの設定は行なえません。必ずWindowsを終了させてからこの操作を行なってください。

操作方法は…

画面の一番上にはメインメニューがあり、下には現在の設定状態の一覧が表示されています。設定項目はメインメニューを選んで[↓]キーを押すとプルダウン式に表示されるサブメニューから選択します。反転表示されている部分が現在選択されている項目です。
WinBookPro100T ――――→ 84ページ
WinBookProP90T ――――→ 85ページ

WinBook Pro 100T(画面の設定値は例です。)

```
Controls    System    Device    Defaults    Exit

Controls
Power Saving:          Battery
Power Switch:   Suspend/Resume
Battery Low:         Warn Only
Alarm Resume:          Disable
Cover Switch:          Suspend

System Options
Cpu Idle:                 8 Sec
Global Standby:           5 Min
Auto Suspend:            10 Min
Video Monitoring:       Disable

Devices
Video:                   4 Min
Hard Disk:           Always On

ESC to exit - F10 to save changes
```

・メインメニューを選択するには ……………………… ◀▶キーでカーソル(反転部分)が移動します。
・サブメニューを選択するには ……………………… ▲▼キーでカーソル(反転部分)が移動します。
・メニュー項目や設定を確定するには ……………… ↵キーを押します。
・設定を変更せずに元に戻るときは ………………… Escキーを押します
・有効にする項目を選択するには …………………… ▲▼キーで有効[×]の項目が移動します。
・有効にした項目の詳細を設定するには …………… ↵を押します。
・サブメニュー内で有効・無効を設定するには …… ↵でチェックマーク(√)の表示(有効)、非表示(無効)を切り替えることができます。
・機能を使用しない設定にするには ………………… [Always On][Disable][None]を選択します。
・終了するには ……………………………………………… メインメニューから[Exit]を選ぶか、Escキーを押します。

《設定を変更していないときは》

次のメッセージが表示されます。このままEscキーを押すと、パワーマネージメントを終了します。その他のキーを押すと、続けて設定を変更できます。

```
ESC to exit now        Any other key to continue
```

《設定を変更しているときは》

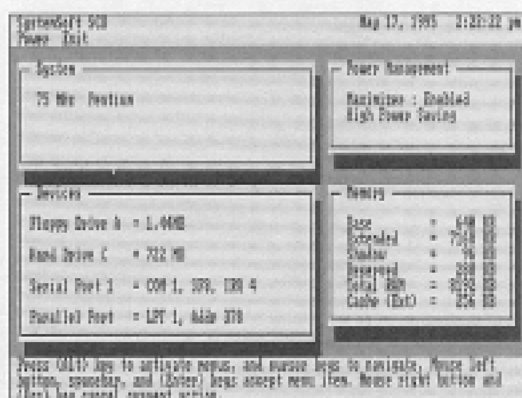
次のメッセージが表示されます。このまま↵キーを押すと、変更された設定がメモリに記憶されてパワーマネージメントが終了します。
Escキーを押すと、設定を変更せずにパワーマネージメントを終了します。その他のキーを押すと、続けて設定を変更できます。

```
Do you wish to save your changes?
ESC to exit - ENTER to save and exit
Any other key to continue
```

Note 100Tで設定の記憶だけ行なうときは

F10キーを押すと、変更された設定がメモリに記憶されます。
このとき、パワーマネージメントは終了されません。

WinBook Pro P90T
（画面の設定値は例です。）



- メインメニューを選択するには …………………… [Alt]キーを押してから、[◀][▶]キーでカーソル(反転部分)が移動します。
- サブメニューを選択するには …………………… [▲][▼]キーでカーソル(反転部分)が移動します。
- 項目を移動するには …………………… [Tab]キーを押します。
- メニュー項目や設定を確定するには …………… [↵]キーを押します。
- 設定を変更せずに元に戻るときは ……………… [Esc]キーを押します
- サブメニュー内で有効・無効を設定するには… [　　]キーでチェックマーク(√)の表示(有効)/非表示(無効)を切り替えることができます。
- 項目内で有効・無効を設定するには …………… [▲][▼]キーで移動し、[　　]キーでマーク[●]の表示(有効)、非表示(無効)を切り替えることができます。
- 機能を使用しない設定にするには ……………… 【Always On】【Disable】【None】を選択します。
- 終了するには …………………………………… メインメニューから【Exit】を選ぶとサブメニューが表示されます。また、[Esc] キーを押すことで、【Save and Exit】を選択した状態に移ることができます。

《設定を変更して終了させるときは》

【Save and Exit】を選択して[↵]キーを押すと、次のメッセージが表示されます。
もう一度[↵]キーを押すと、変更された設定がメモリに記憶されてパワーマネージメントが終了します。[Esc]キーを押すと、続けて設定を変更できます。

```
Press <OK>to save the current setup parameters to CMOS RAM and Exit
the SCU
```

《設定を無効にして終了させるときは》

【Exit(No Save)】を選択して[↵]を押し、もう一度[↵]を押すと変更された設定が記憶されずにパワーマネージメントを終了します。

各種の設定を行なう

選択するメニューはモデルにより異なります。
なお、選択項目はメインメニュー、サブメニューの順で表記しています。

パワーセービング機能の設定

● **パワーセービング機能を使うかどうか選択する**

100T　【Controls】-【Power Savings】

Alwaysを選択するとバッテリパック・ACアダプタどちらの電源を使用していてもパワーセーブ機能が有効になります。Batteryを選択すると、バッテリパックを使用しているときのみパワーセーブ機能が有効になります。

P90T　【Power】-【Enable Power Saving】

パワーセーブ機能の有効/無効を設定します。

P90T　【Power】-【Battery Only】

バッテリパックを使用しているときのみパワーセーブ機能が有効になります。

● **クロックスピードを落とす**

100T　【System】-【CPU Idle】

P90T　【Power】-【Customize】-【CPU Timeout】　▲▼キーで値を変更

システムが一定時間稼動していないと判断した場合、自動的にCPUのクロックスピードを遅くするための機能です。時間は4秒から16秒の間で設定します。キーボードを押したりスティックポインタを操作するとクロックは元の速度に復帰します。

● **ディスプレイ表示を消す**

100T　【Device】-【Video】

P90T　【Power】-【Customize】-【Video Timeout】

一定時間キーボードからの入力がなかった場合、自動的にディスプレイ(LCD·CRT)の表示を消します。このとき、表示は消えていますがシステムの動作は継続しています。時間は1分から16分の間で設定します。

Note　クロックスピードが落ちると困るときは

メモリの中だけで計算を行なうようなプログラムを実行している場合にクロックスピードを落とす設定を行なっていると、稼働状態の検出が正しくできないことがあり、CPUのスピードが落ちてしまいます。このようなときは、無効(Always OnまたはDisable)に設定してください。

● ハードディスクの電源をOFFにする

100T　【Device】-【Hard Disk】

P90T　【Power】-【Customize】-【Disk Timeout】

一定時間キーボードからの入力がないか、ハードディスクが動作していない場合、自動的にハードディスクの電源をOFFにする機能です。このときハードディスクの電源は切れますが、システムの動作は継続しています。時間は1分から16分の間で設定します。

● グローバルスタンバイにする

100T　【System】-【Global Standby】

P90T　【Power】-【Customize】-【Global Timeout】

システムが一定時間稼動していないと判断した場合、自動的にシステムの各部品の電源をOFFにします。システムの動作は停止し、ディスプレイ表示も消えます。時間は1分から16分の間で設定します。キーボードを押したりスティックポインタを操作するとグローバルスタンバイは解除されます。

● パワーセービングモードを設定する(P90Tのみ)

P90T　【Power】-【Low Power Saving】

【Power】-【Medium Power Saving】

【Power】-【High Power Saving】

「クロックスピード」「ディスプレイ表示」「ハードディスクの電源」の3つをまとめて設定することができます。

それぞれのモードの時間設定は次のとおりです

モード	クロック	ディスプレイ	ディスク	グローバル
Low Power Saving	16秒	16分	16分	16分
Medium Power Saving	8秒	4分	4分	4分
High Power Saving	4秒	1分	1分	1分

Note クロックスピードが落ちると困るときは

メモリの中だけで計算を行なうようなプログラムを実行している場合にグローバルスタンバイの設定を行なっていると、稼働状態の検出が正しくできないことがあり、グローバルスタンバイ状態になってしまうことがあります。このようなときは、無効(Always OnまたはDisable)に設定してください。

Note Ｐ９０Ｔでネットワークを使っている場合

【Ｐｏｗｅｒ】の設定項目はすべて「Ａｌｗａｙｓ ｏｎ」に設定しておくことをお勧めします。

サスペンド・レジューム機能の設定

● サスペンド・レジューム機能を使うかどうか選択する

100T　【Controls】-【Power Switch】
P90T　【Power】-【Suspend Switch】

電源スイッチを押したときの動作を設定します。電源をON/OFFするか、サスペンド・レジュームさせるかのどちらかを選択します。
100Tの場合、電源ON/OFFが「On/off」、レジュームが「Suspend/Resume」です。P90Tの場合、電源ON/OFFが「チェックマーク無し」、レジュームが「チェックマーク有り」です。

● サスペンド・レジュームさせるまでの時間を設定する

100T　【Controls】-【Alarm Resume】
P90T　【Power】-【Suspend Controls】-【Set Alarm Resume】

あらかじめ設定した時刻にシステムをレジュームさせることが可能です。アラームレジュームを行なうように設定するとアラーム時刻設定を行なうための項目が出ますので、希望の時刻を入力してください。
100Tの場合、[▲][▼]キーでEnable(有効)、に切り替えた後[↵]を押し、時間を設定します。

● オートサスペンド

100T　【System】-【Auto Suspend】
P90T　【Power】-【Suspend Controls】-【Suspend Timeout】
[ ]キーを押して[▲][▼]キーで値を選択

システムが一定時間稼動していないと判断した場合、自動的にシステムをサスペンドさせるための機能です。システムの動作は停止し、ディスプレイ表示も消えます。時間は1分から60分の間で設定します。グローバルスタンバイよりも消費電力は少なくなります。任意のキーを押すなどの操作を行なうとサスペンド状態から復帰しますが、レジュームには数秒かかります。

Word サスペンド・レジューム

アプリケーションの実行中に電源をOFFにすると現在の状態をメモリに保存し、電源をONにしたときには、OFFにする直前と同じ状態で動作させることができる機能です。使っているアプリケーションを終了させることなく作業を中断でき、再び作業を始めるときにもファイルを読み込む必要がないので便利です。ただし、レジューム状態では、少量の電力が消費されていますので、バッテリを使っているときに長時間この状態のままにしておくことはお勧めできません。この機能は、パワーマネージメントで有効か無効かを設定できます。

● バッテリ容量低下時の動作を設定する

100T　【Controls】-【Battery Low Suspend】

P90T　【Power】-【Suspend Controls】-【Low Battery Suspend】

システムはバッテリの容量が少なくなると自動的に電源LEDの色を緑からオレンジに変化させ、CPUの動作クロックを遅くします。P90Tの場合WarnOnlyを選択するとシステムは動作できる限界点でサスペンドします。Suspendを選択すると、ある程度余裕を持ってサスペンドします。

⚠注意 バッテリ容量が少ない状態でサスペンドに入ったときはそのままの状態からレジュームさせないでください。システムにレジュームさせるだけの容量は残っていません。必ず、ACアダプタを装着してからレジュームさせてください。

● カバーを閉じたときの動作を設定する

100T　【Controls】-【Cover Close Switch】

P90T　【Power】-【Cover Switch】

LCDカバーを閉じたときに、サスペンド状態に入るか、そのまま動作を継続するかを選択できます。

外部ディスプレイ(CRT)を接続してデスクトップコンピュータのように使うときは、そのまま動作し続ける設定にしてLCDカバーを閉じておきます。

⚠注意 LCDカバーを閉じた状態で使用するときは内部の熱がこもらないように風通しの良いところでご使用ください。内部温度が上昇しすぎた場合、過熱保護装置が機能し、システムの動作が遅くなります。この場合、電源をOFFにして温度が低下するまで使用しないでください。また、LCDカバーを閉じたまま使用した後、温度が下がらないうちにLCDカバーを開けて使用するとLCD上にムラが現れる場合がありますが、故障ではありません。しばらくすると、ムラは無くなります。

● ビデオモニタリングを設定する

100T　【System】-【Video Monitoring】

P90T　【Power】-【Customize】-【Monitor Video Activity】

CPU Idol、GlobalStandby、AutoSuspendといったパワーセーブ機能を使用しているとき、アプリケーションプログラムによっては、この機能を設定している方が効果的にパワーセーブできる場合があります。

その他の設定

● 設定をデフォルト状態に戻す(100Tのみ)

100T　【Defaults】

パワーマネージメントメニューの各項目の設定値をデフォルトに戻します。

各項目のデフォルト値は次のとおりです。

100T

メニュー	サブメニュー	デフォルト設定値	説明
Controls	PowerSaving	Battery	バッテリー使用時のみパワーセーブを行なう
	PowerSwitch	Suspend･Resume	サスペンド・レジュームを行なう
	BatteryLow	WarnOnly	バッテリ残量警告のみ
	AlarmSuspend	Disable	時刻設定レジューム禁止
	CoverSwitch	Suspend・Resume	サスペンド・レジュームを行なう
	PC SpeakerEnable	On	PCスピーカ出力オン
System	CPU Idle	8	CPUのスタンバイ機能8秒
	Global Standby	6	システム全体のスタンバイ機能6分
	Auto Suspend	10	自動サスペンド10分
	Video Monitoring	Disable	ビデオメモリアクセス監視機能禁止
Device	Video	4	ビデオ回路のパワーセーブ4分
	HardDisk Always	On	ハードディスクのパワーセーブなし

P90T

メニュー	サブメニュー	デフォルト設定値	説明
Power	Enable Power Saving	Enable	パワーセーブを行なう
	Battery Only	Disabled	
	Low Power Saving	Disable	
	Medium Power Saving	Disable	
	High Power Saving	Enable	
	Customize	No effect	デフォルトはありません
	Suspend Switch	Disable	サスペンドスイッチとして機能
	Suspend Controls	Suspend Timeout:never Alarm Resume:Disabled (時刻設定レジューム禁止)	
	Cover Switch	Suspend	サスペンドを行なう

3 画面の解像度を変える

本製品には、高解像度TFTカラー液晶ディスプレイが搭載されています。Windowsでは最高800x600ドット･65,536色で表示することができます。他の解像度･色数･文字サイズで表示させるときは、ディスプレイドライバを変更します。

出荷状態の設定

製品の出荷状態は、次のようになっています。

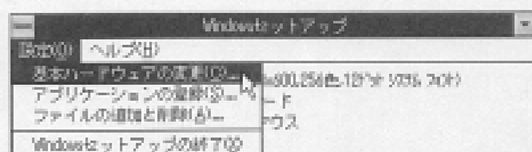
表示ディスプレイ	:本体LCD表示のみ
解像度	:800x600ドット
色数	:65,536色
文字サイズ	:16ドット

ディスプレイドライバを変える

1 Windowsを起動して[メイン]グループにある[Windowsセットアップ]アイコンをダブルクリックします。



2 [基本ハードウェアの変更]を選択します。



Note 表示させるディスプレイを変えるには

一時的に変更する場合は、Fn+F1を押すと(CRT->LCD->同時表示)の順で切り替わります。
常時一定の表示を選択する場合は、システムコンフィグレーションで行ないます。
(➔ 74ページ)

なお、同時表示の場合はLCD用表示回路の動作がCRTの要求速度に自動的に調整されるため、若干の表示品質が低下する場合があります。

3 「ディスプレイ」の右端の[▼]にポインタを合わせてクリックすると、表示モードが選択できるようになります。以下のディスプレイドライバが選択できます。



● 640×480ドット

WinBook-Pro 640x480,16色,12ドット システム フォント
WinBook-Pro 640x480,16色,16ドット システム フォント
WinBook-Pro 640x480,256色,12ドット システム フォント
WinBook-Pro 640x480,256色,16ドット システム フォント
WinBook-Pro 640x480,64K色,12ドット システム フォント
WinBook-Pro 640x480,64K色,16ドット システム フォント

● 800×600ドット

WinBook-Pro 800x600,16色,12ドット システム フォント
WinBook-Pro 800x600,16色,16ドット システム フォント
WinBook-Pro 800x600,16色,20ドット システム フォント
WinBook-Pro 800x600,256色,12ドット システム フォント
WinBook-Pro 800x600,256色,16ドット システム フォント
WinBook-Pro 800x600,256色,20ドット システム フォント
WinBook-Pro 800×600,64K色,12ドットシステムフォント
WinBook-Pro 800×600,64K色,16ドットシステムフォント
WinBook-Pro 800×600,64K色,20ドットシステムフォント
出荷設定では64K色の16ドットシステム設定が選択されています。

Note MS-DOS画面では…

MS-DOSの画面では、640X480ドット以下の解像度で表示を行います。このため、LCD上では画面の中央部に表示され、回りの一部には表示されない部分ができます。

Note 仮想表示モードとは?

1024×768の表示面積の仮想ディスプレイがあるとして動作を行います。実際の表示は800×600ドットになっていますが、見えない部分(表示されない部分)は、カーソルを移動させると、自動的に画面がスクロールして見えるようになります。

● 1024×768ドット(CRT表示のみ)

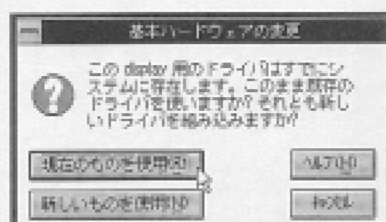
WinBook-Pro 1024x768,16色,12ﾄﾞｯﾄ ｼｽﾃﾑ ﾌｫﾝﾄ
WinBook-Pro 1024x768,16色,16ﾄﾞｯﾄ ｼｽﾃﾑ ﾌｫﾝﾄ
WinBook-Pro 1024x768,16色,20ﾄﾞｯﾄ ｼｽﾃﾑ ﾌｫﾝﾄ
WinBook-Pro 1024x768,16色,24ﾄﾞｯﾄ ｼｽﾃﾑ ﾌｫﾝﾄ
WinBook-Pro 1024x768,256色,12ﾄﾞｯﾄ ｼｽﾃﾑ ﾌｫﾝﾄ
WinBook-Pro 1024x768,256色,16ﾄﾞｯﾄ ｼｽﾃﾑ ﾌｫﾝﾄ
WinBook-Pro 1024x768,256色,20ﾄﾞｯﾄ ｼｽﾃﾑ ﾌｫﾝﾄ
WinBook-Pro 1024x768,256色,24ﾄﾞｯﾄ ｼｽﾃﾑ ﾌｫﾝﾄ

この解像度での表示はCRTのみでの表示を選択しているときにのみ有効です。LCDのみ、LCD/CRT同時表示を選択しているときには仮想表示モードが選択されます。

4 表示されているディスプレイドライバに間違いがなければ[OK]をクリックします。



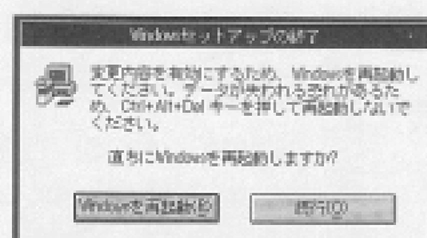
5 ドライバをそのまま使うか、上書きするかを聞いてきますので、[現在のものを使用]をクリックします。



Note 外部ディスプレイに表示させるときは

Windowsを一旦終了させ、電源をOFFにしてから外部ディスプレイを接続します。その後、システムコンフィグレーションでディスプレイ表示の設定を行なってからWindowsを起動します。(➔ 78ページ)

6 Windowsを再起動してもいいかどうか聞いてきますので、[Windowsを再起動]をクリックします。外部ディスプレイに表示させるときは[続行]をクリックしてプログラムマネージャからWindowsを終了させます。



7 選択した表示モードでWindowsが起動します。

ディスプレイと解像度について

外部ディスプレイは、選択された解像度の水平周波数に対応しているものをお使いください。

解像度	水平周波数	使用可能ディスプレイ
640×480	31.5/35.5KHz	VGAモニタ
800×600	37.5KHz	ノンインターレース表示 マルチ周波数CRT
1024×768	48.5KHz	ノンインターレース表示 マルチ周波数CRT

Note **スタンダードモードで使うときは**

本製品では WIN/Sコマンドで起動するWindowsのスタンダードモードはサポートしていません。このモードで動作させる必要がある場合にはVGAディスプレイドライバか、800×600SVGAドライバを選択してください。

4 CONFIG.SYSの設定を変える

ご利用になる環境にあわせて「CONFIG.SYS」の設定を変更してメモリの消費を抑えることにより快適な動作環境を得ることができます。なお、「CONFIG.SYS」で使われているコマンドについては、付属の「Microsoft Windows&MS-DOSユーザーズガイド」をお読みください。

ドライバを有効／無効にする

「CONFIG.SYS」の書き換えは、Windowsの[アクセサリ]グループにあるメモ帳か、DOSディレクトリの中のMS-DOS用エディタ「EDIT.EXE」などをお使いください。

EMSメモリを使う場合

LIM EMSメモリを使用するDOS/Vアプリケーションのために64KバイトのEMSページフレームをD8000HからE7FFFHまで割り当てることができます。次のように「NOEMS」を「RAM」に変更してください。

```
DEVICE=C:¥DOS¥EMM386.EXE NOEMS X=D000-D7FF
```



```
DEVICE=C:¥DOS¥EMM386.EXE RAM X=D000-D7FF
```

DOSアプリケーションでかな漢字変換を使う場合

DOSアプリケーションでかな漢字変換を使う場合は、MS-DOS用のMSIMEかな漢字変換のデバイスドライバを組み込む必要があります。以下の2行の行頭の「REM」を削除してください。

取る

```
REM DEVICE=C:¥DOS¥MSIMEK.SYS /A1
REM DEVICE=C:¥DOS¥MSIME.SYS /DC:¥DOS¥MSIMER.DIC /
DC:¥DOS¥MSIME.DIC /C1 /N /A1
```

PCカードを使用しない場合

PCカードを使用しない場合は、その関連ドライバをロードしないようにすることができ、その分メモリが節約できます。以下に示す各行の行頭にREMを追加してください。

```
REM DEVICE=C:¥CARDWIZ¥SSCIRRUS.EXE
REM DEVICE=C:¥CARDWIZ¥CS.EXE
REM DEVICE=C:¥CARDWIZ¥CSALLOC.EXE C:¥CARDWIZ¥CSALLOC.INI
REM DEVICE=C:¥CARDWIZ¥CARDID.EXE
```

ESC/PプリンタをDOSで使用しない場合

ESC/PプリンタをMS-DOS上で利用せず、Windows上でのみ使用する場合はプリンタ用のドライバは不要です。行頭にREMを追加してください。

```
REM DEVICEHIGH /L:1,6784 =C:¥DOS¥JPRINTER.SYS
```

第6章

トラブルが起きたら・・・

トラブルが発生したときの原因と対処方法について説明しています。うまく動作しないときなどにお読みください。

1 トラブルの原因と対処方法

本製品のご使用中に何らかのトラブルが生じた場合、まず、どのような状態であるのかを確認し、対処方法にしたがって処置を行なってください。
もし、対処方法通りにしても解決できないときや、ここで説明されている以外のトラブルが発生した場合は、「ソーテック テクニカルサポートセンタ」までご連絡ください。(➔ 12ページ)

●電源スイッチを入れても動かない

考えられる原因	対処方法
ACアダプタが正しく接続されていない。	ACアダプタを正しく接続してください。
バッテリが充電されていない。	ACアダプタを接続して、バッテリを充電してからご使用ください。
ACアダプタが故障している。	他の電気製品を同じコンセントに接続して、動くかどうか確認してください。もし正常に動けばアダプタが故障している可能性があります。その場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。
本体が故障している。	お買い求めの販売店にご相談ください。
ハングアップした状態のときは電源に問題があります。	バッテリパックを取り外してACアダプタのみでもう一度電源スイッチをONにしてください。
メモリテストが正常に行なわれるのにMS-DOSが起動しないときは、システムコンフィグレーションの設定が間違っています。	システムコンフィグレーションの設定をデフォルトに戻してください。

●画面に何も表示されない、または見にくい

考えられる原因	対処方法
電源が入っていない。	「●電源スイッチを入れても動かない」参照
輝度が正しく調整されていない。	輝度調整ノブで見やすい位置に調整してください。
ディスプレイの角度が悪い。	ディスプレイを見やすい角度に調整してください。
ディスプレイにムラがある。	液晶ディスプレイは、周囲の温度などの影響によって表示が変わる特性があります。ムラがあるのは故障ではありません。
表示モード設定がCRTで、外部ディスプレイの電源がOFFになっている。	外部ディスプレイの電源スイッチをONにしてください。

●スーパーVGAモードにならない

考えられる原因	対処方法
DOS環境で動作するアプリケーションを動かしている。	LCD、CRT(外部ディスプレイ)ともにDOSモードでは640×480ドット表示しかできません。

●ハードディスクから立ち上がらない

考えられる原因	対処方法
フロッピードライブにシステムが入っていない(A>NO System Files..と表示される)	フロッピーディスクを出して再度電源を入れ直してください。
システムディスクが挿入されていない。	システムディスクを挿入してください。

●フロッピーディスクの内容が読み書きできない

考えられる原因	対処方法
フロッピーディスクが正しくセットされていない。	フロッピーディスクを正しくセットし直して、もう一度やり直してください。
フロッピーディスクがフォーマットされていない。	フロッピーディスクをフォーマットしてからご使用ください。
フロッピーディスクの内容が壊れている。	壊れた内容は元には戻せません。バックアップを取ってある場合は、それをご使用ください。
フロッピーディスク装置が故障している。	別のフロッピーディスクをセットしても読み書きできないときはフロッピーディスクドライブが故障しています。
フロッピーディスクが書き込み禁止状態になっている。	ライトプロテクトノッチを書き込み可能状態にしてください。(➔ 38ページ)
フォーマット形式の異なるフロッピーディスクがセットされている。	正しいフロッピーディスクをセットしてください。1.2MBフォーマットされたフロッピーディスクを読み書きする場合は「1024FD.EXE」を実行してください。(➔ 39ページ)
ドライブ指定が合っていない。	ドライブ指定を正しく設定し直してください。
フロッピーディスクのメモリー残量が充分でない。	不要なファイルを削除するか、新しいフロッピーディスクを使用してください。

●押したキーと違う文字が表示される

考えられる原因	対処方法
CAPSロック、NUMロック、"ひらがな/カタカナ"キーなどが間違って押されている。	各キーを目的の文字がタイプされるように合わせてください。(➔ 47ページ)

●カーソルが動かず画面が移動する

考えられる原因	対処方法
SCRLロック状態になっている。	SCRLロックを解除してください。

●いきなり画面が消えた

考えられる原因	対処方法
電源コンセント、またはACアダプタプラグが外れている。	コンセントまたはプラグを差し込んでください。
サスペンド・レジュームやパワーセーブを有効にしている場合、設定の時間になったのでレジューム/パワーセーブ状態に入った。	何かキーを押すと元の状態に戻ります。サスペンド・レジュームやパワーセーブを使いたくないときは、パワーマネージメントの設定を変更してください。(➔ 83ページ)

●印刷できない

考えられる原因	対処方法
プリンタの電源が入っていない。	プリンタの電源を入れてください。
プリンタケーブルが外れている。	プリンタケーブルを正しく接続してください。
印刷用紙が入っていない。	印刷用紙を入れてください。

●外部マウスが動作しない

考えられる原因	対処方法
接続ケーブルが外れている、または接続されていない。	接続ケーブルを正しく接続してください。もし動かない場合には、再度電源を入れ直してください。
電源投入後マウスを接続した。	電源を再投入してください。
外部マウスとスティックポインタを同時に使用している	専用キーボード・マウス接続アダプタをお買い求めのうえ使用してください。また、このアダプタには外部キーボード専用接続コネクタとPS/2マウス専用接続コネクタがあります。PS/2マウスはマウス専用接続ポートに接続してください。
適正なマウスドライバを使用していない。	使用されるマウスに添付されているマウスドライバを正しくインストールしてください。
DOSアプリケーションを使用している。	DOSアプリケーションでマウスを使用するには、マウスドライバー(MOUSE.COM)が必要です。お手持ちのマウスに添付しているものをご使用ください。

●ビープ音が鳴っている

考えられる原因	対処方法
バッテリ容量がなくなっている。	ACアダプタを接続するか、または一度電源を切って別の充電済みのバッテリを装着してください。
ACプラグアダプタが外れかかっている、または外れている。	正しく接続し直してください。

●表示される日付や時刻が正しくない

考えられる原因	対処方法
日付や時刻設定をしていないか、間違った設定になっている。	正しい日付や時刻に設定し直してください。(➔ 31ページ)

●充電表示用LEDが点灯しない

考えられる原因	対処方法
バッテリ端子の接触不良。	バッテリを一度取り外してから、やわらかい布で端子部分を軽く拭いてください。

●サスペンド・レジュームできない

考えられる原因	対処方法
パワーマネージメントメニューの設定が正しくない。	パワーマネージメントメニューを呼び出し正しく設定を行ってください。(➔ 83ページ)
バッテリ容量がなくなった。	ACアダプタまたは充電済みバッテリに交換し再度電源を入れ直してください。(➔ 26ページ)

⚠注意　ハードディスクを修理する場合は、ドライブのみの修理もしくは交換となります。ハードディスクに記憶されているアプリケーション、データなどの保証、修復はいたしかねますので、重要なものについては必ずバックアップをとってください。

MEMO

Appendix

バックアップディスクの作成と再インストールの方法や、本ユーザーズガイドの索引、本製品の仕様について記載しています。必要に応じてお読みください。

1 バックアップディスクを作成する

ここでは、バックアップディスクを作成する方法について説明します。

バックアップディスク作成の準備

本製品に付属している、MS-DOSやWindows、MS Works、および、各種のユーティリティやドライバは内蔵ハードディスクドライブにインストールされています。
万が一何らかのトラブルや故障が発生して、これらのプログラムを再インストールする必要が起きたときのために、フロッピーディスクにバックアップをとっておくことをお勧めします。また、Windowsで使用するプリンタを設定するときにもバックアップされたディスクが必要になります。

バックアップディスクの作成には、2HDタイプのフロッピーディスクが必要です。バックアップ作業を始める前に用意しておいてください。(フォーマットされていなくてもかまいません)
なお、バックアップしたディスクには、本製品に付属のバックアップディスクラベルを貼ってください。



バックアップディスクを1組作成すると、ハードディスクドライブの中にあるバックアップ用に用意されている領域が削除されます。
このため、バックアップディスクは1組しか作成できません。ご注意ください。

ハードディスクドライブの中にあるバックアップ用に用意されている領域が削除されます。

⚠注意 **お客様が作成された、データやプログラムのバックアップはできません。MSバックアップや市販のバックアップソフトをご利用ください。**

Note 必要なディスクの枚数は?

すべてのアプリケーションをバックアップするには27枚のフロッピーディスクが必要です。どのアプリケーションをバックアップするかは選択できますが、すべてのアプリケーションをバックアップしておくことをお勧めします。

MS-DOS 6.2/V ディスク	6枚
MS-Windows 3.1 ディスク	12枚
MS Works ディスク	4枚
リファレンスディスク	1枚
ディスプレイドライバディスク	1枚
オーディオドライバディスク	2枚
Card Wizardディスク	1枚

バックアップディスク作成の手順

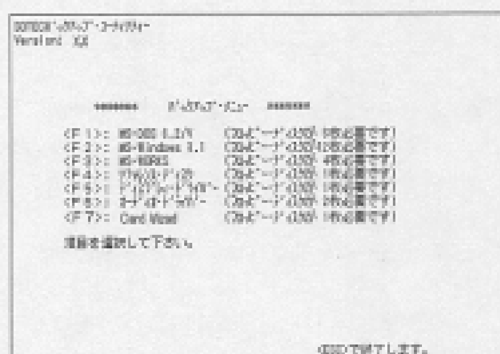
本製品には、簡単な操作でバックアップディスクを作成することのできるバックアッププログラム〈STBACKUP.EXE〉が付属しています。お買い上げ後、最初に電源をONにしたときは、自動的にこのプログラムが実行されます。このプログラムは日本語モードでのみ動作します。英語モードになっている場合は、JP↵と入力して日本語モードに変更してから実行してください。

1 MS-DOSのプロンプト（C:¥>）が表示されている画面で、STBACKUPと入力し、↵キーを押します。

```
C:¥>STBACKUP↵
```

2 バックアップについての説明が表示されます。説明をお読みになったら何かキーを押してください。

3 バックアップをとりたいアプリケーションのグループをファンクションキーから選択します。同時に複数を選択することはできません。



4 画面のメッセージにしたがって、用意しておいたフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし↵キーを押します。

5 2枚以上のディスクが必要なときは、メッセージにしたがって入れ替えます。

6 ドライブから取り出したディスクには、付属のバックアップディスク用のラベルを1から順に貼ります。続けて他のアプリケーションのバックアップも行なう場合は、手順3以降を繰り返します。

Note 起動時のメッセージをなくすには

「ようこそ」のメッセージとバックアップディスク作成メニューを表示させないようにするには、AUTOEXEC.BATの中の最下行の「Start」の行頭に「REM」を付けます。

REM start
↑
付ける

Note バックアップディスクの購入

バックアップディスクは購入することもできます。購入方法については本製品をお求めになった販売店、またはソーテックテクニカルサポートセンターまでお問い合せください。

2 ソフトやドライバの再インストール

バックアップしたシステムやソフトウェア、アプリケーション、デバイスドライバなどを内蔵ハードディスクドライブに再インストールする方法について説明します。

Card Wizardの再インストール方法は、READMEテキストに書かれています。[System Soft Tools グループ]にある[Card Wizard Read Me]アイコンをダブルクリックしてお読みください。

MS-DOS 6.2/Vの再インストール

●必要なディスク　MS-DOS 6.2/Vセットアップディスク 6枚
リファレンスディスク 1枚

1. MS-DOS セットアップディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。
2. リセットボタンを押すか、Ctrl+Alt+Delete キーを同時に押してシステムを再起動します。
3. このあとは、表示されるメッセージにしたがって操作を行ないます。
4. MS-DOS 6.2/V のセットアップ作業が終わります。
5. リファレンスディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。
6. COPY コマンドで、「AUTOEXEC.BAT」と「CONFIG.SYS」をCドライブのルートディレクトリにコピーします。

```
C:¥>COPY A:¥AUTOEXEC.BAT C:¥↵
C:¥>COPY A:¥CONFIG.SYS C:¥↵
```

「XXXXX を上書きしますか?」と表示されたら Y を入力して ↵ キーを押します。

7. リセットボタンを押すか、Ctrl+Alt+Delete キーを同時に押してシステムを再起動します。

Appendix

Note システムファイルについて

リファレンスディスクに入っている「AUTOEXEC.BAT」と「CONFIG.SYS」は、本製品の使用に最適な環境に設定されています。

Note セットアップの詳しい説明は

MS-DOSセットアップの詳しい説明をお知りになりたい方は、別売りの「MS-DOS6.2/Vセットアップガイド」をご参照ください。
入手の方法については、販売店もしくはソーテックテクニカルサポートセンタにお問い合わせください。

MS Windows 3.1の再インストール

● **必要なディスク**　MS Windows 3.1セットアップディスク 12枚

この作業は、MS-DOSのプロンプト(C:¥>)が表示されている状態から行います。
再インストール方法の詳しい説明は、付属の「Microsoft Windows & MS-DOSユーザーズガイド」の"Windowsセットアップと Windowsの再インストール"の項目に記載されていますのであわせてお読みください。

1 MS Windows 3.1 セットアップディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。

2 A:¥SETUP と入力して ↵ キーを押します。

```
C:¥>A:¥SETUP↵
```

3 このあとは、表示されるメッセージにしたがって操作を行ないます。

本製品は、コンピュータの性能を落とさず消費電力を抑えるために取り決められた規格であるAPM(アドバンスト パワーマネージメント)をサポートしています。インストール方法の選択では「カスタムセットアップでインストールする」を選択し、システム情報の「コンピュータ」の項目で「MS-DOS with APM」を選択してください。アイドル時の消費電力を大幅に抑えることができます。(出荷時インストール済みのWindowsはこの設定になっています。

Windowsを最適な状態で動作させるためには、ディスプレイドライバ(➔ 108ページ)とオーディオドライバ(➔ 110ページ)の再インストールが必要です。
また、お使いのプリンタ専用のドライバが必要な場合があります。

Note **プリンタドライバについて**

プリンタドライバは、Windowsで印刷を行なう場合には必ず必要です。Windowsには、主要メーカーのプリンタドライバがすでに収録されており、[コントロールパネル]から必要なものを選択することで組み込むことができます。(このとき、セットアップディスクが必要です。)収録されていないプリンタをお使いのときは、プリンタに付属するドライバディスクを使って組み込みます。

ディスプレイドライバの再インストール

●必要なディスク　ディスプレイドライバディスク 1枚

ディスプレイドライバの再インストールは、Windows上から行なう方法とMS-DOS上から行なう方法の2通りあります。
何らかの理由により、WinBook Pro用のドライバ以外のものがインストールされたり、WinBook Pro用のドライバファイルが壊れた場合はWindowsが起動しなくなることがあります。このような場合は、MS-DOS上から再インストールを行ないます。
ここでは、この方法について説明します。Windows上から行なうときは、91ページ「ディスプレイドライバを変える」をお読みください。

この作業は、Windowsがインストールされている状態で行います。Windowsがまだインストールされていないときは先にインストールしておいてください。

1 MS-DOSのプロンプト (C:¥>) が表示されている状態で、C:¥WINDOWS¥SETUP と入力し、⏎キーを押します。

```
C:¥>C:¥WINDOWS¥SETUP⏎
```

2 ↑↓キーで【ディスプレイ:】を選択し、⏎キーを押します。

3 ↑↓キーで表示される【WinBook ProXXXXXXXXXXX】のドライバから、表示させたい解像度・色数・文字サイズのドライバを選択して、⏎キーを押します。
出荷時の設定は、【WinBook-Pro 800x600,64K色,16ドットシステムフォント】になっています。
(➔ 92ページ)

もし希望のドライバが見つからないときは、ディスプレイドライバディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、▲▼キーで【その他(ハードウェアメーカーが提供するディスクが必要】を選びます。

4 WINと入力して⏎キーを押すと、選択されたディスプレイドライバでWindowsが起動します。

Note 再インストールの詳しい説明は

再インストール方法の詳しい説明は、付属の「Microsoft Windows & MS-DOSユーザーズガイド」の「Windowsの拡張とセットアップ」の項目に記載されていますのであわせてお読みください。

Note Windows上での再インストールは

[メイン]グループにある[Windowsセットアップ]アイコンをダブルクリックします。
このあと、メニューバー【設定】-【基本ハードウェアの変更】を選択して希望のディスプレイドライバをインストールします。
(➔ 91ページ)

MS Worksの再インストール

● **必要なディスク**　MS Worksディスク 4枚

この作業は、Windowsがインストールされている状態で行います。Windowsがまだインストールされていないときは先にインストールしておいてください。

再インストール方法の詳しい説明は、付属の「MS Works ユーザーズガイド」の"Worksのセットアップ"の項目をお読みください。

時刻補正ドライバの再インストール

● **必要なディスク**　リファレンスディスク 1枚

時刻補正ドライバ「PMEXT.SYS」は、サスペンドレジュームを行ったときに発生する時刻のずれを修正するための専用デバイスドライバで、常に起動時に実行されます。
リファレンスディスクに入っている「PMEXT.SYS」をハードディスク上の「UTIL」ディレクトリにコピーして、「CONFIG.SYS」に登録します。

この作業は、MS-DOSのプロンプト(C:¥>)が表示されている状態で行います。

1 リファレンスディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。

2 ハードディスク上（Cドライブ）に、「UTIL」ディレクトリが存在しない場合には、コピーの前にディレクトリを作成しておきます。

```
MD C:¥UTIL↵
```

3 COPYコマンドで、「PMEXT.SYS」をCドライブの「UTIL」ディレクトリにコピーします。

```
C:¥>COPY A:¥UTIL¥PMEXT.SYS C:¥UTIL↵
```

4 COPYコマンドで、「AUTOEXEC.BAT」と「CONFIG.SYS」をCドライブのルートディレクトリにコピーします。

```
C:¥>COPY A:¥AUTOEXEC.BAT C:¥↵
C:¥>COPY A:¥CONFIG.SYS C:¥↵
```

「XXXXXを上書きしますか?」と表示されたらYを入力して↵キーを押します。

5 リセットボタンを押すか、Ctrl+Alt+Deleteキーを同時に押してシステムを再起動します。

オーディオアプリケーションの再インストール

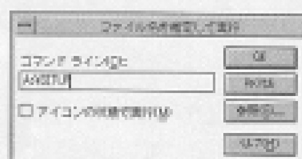
● **必要なディスク**　オーディオドライバディスク 2枚

この作業は、Windowsがインストールされている状態で行います。Windowsがまだインストールされていないときは先にインストールしておいてください。

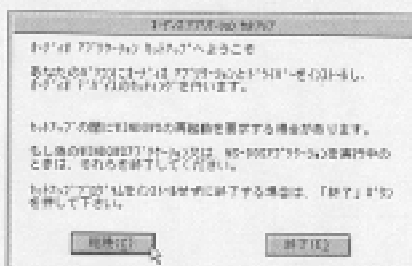
1 オーディオドライバディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。

2 プログラムマネージャのメニューバーから【アイコン】-【ファイル名を指定して実行】を選択します。

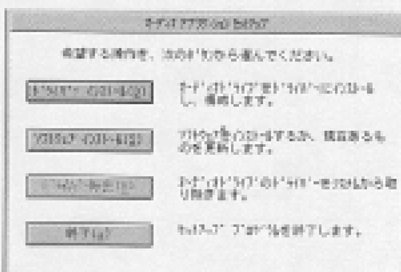
3 A:¥SETUP と入力して［OK］ボタンをクリックします。



4 しばらくするとオーディオアプリケーションセットアップウィンドウが表示されますので、［継続］ボタンをクリックします。



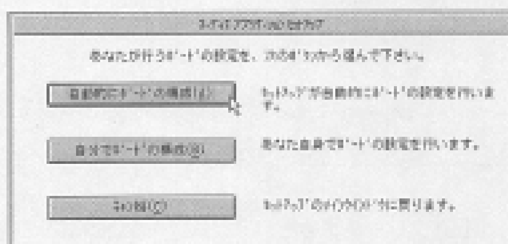
5 ドライバのインストールか、ソフトのインストールかを指定します。
再インストールが必要なほうのボタンをクリックします。



Appendix

ドライバインストール

1 インストール方法を指定します。
ここでは、【自動的にボードの構成】をクリックします。

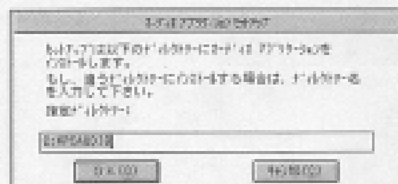


【自分でボードの構成】をクリックすると、I/Oアドレス、インタラプト、DMAチャネルの設定画面が表示されますが、本システムでは設定を変更することはできません。間違ってこの画面が表示されてしまったら[Cancel]ボタンをクリックしてください。

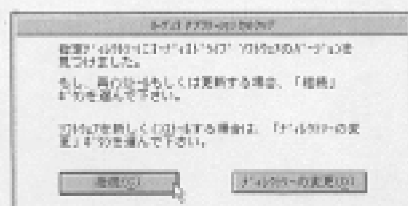
2 ドライバのインストールだけを行なう場合は、【Windowsの再起動】をクリックして再起動させます。このあと、ソフトウェアのインストールも行なうときは【ソフトウェアインストール】をクリックします。

ソフトウェアインストール

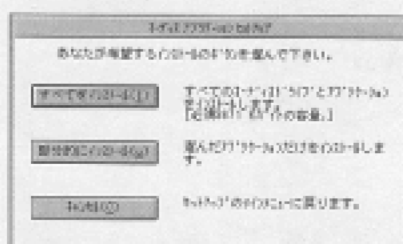
1 オーディオアプリケーションのインストール先を指定します。
本システムでは、「C:¥PCAUDIO」ディレクトリにインストールしますので、そのまま[OK]ボタンをクリックします。



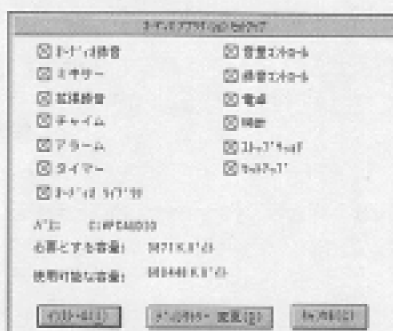
2 すでにそのハードディスク、ディレクトリ上にオーディオアプリケーションが存在する場合はディレクトリを変更するかどうかを聞いてきます。
ここでは、[継続]ボタンをクリックします。



3 アプリケーションを全部インストールするか、または、その一部だけをインストールするのかを指定します。全部インストールするには3871Kバイトの空きが必要です。



4 【部分的にインストール】をクリックすると、アプリケーション選択の画面が表示されます。インストールしたいアプリケーションをチェックボックスをクリックして選択します。



5 選択が終わったら［インストール］をクリックします。

6 オーディオアプリケーションのファイルがコピーされます。

7 次の画面が表示されたら「オーディオドライバディスク2」に入れ替えます。



8 ［オーディオアプリケーション］グループが作成され、アイコンが登録されます。

9 これでインストール作業は終わりです。
ドライバのインストールも行なったときは、一旦Windowsを再起動させてください。

3 索引

M

N

P

Q

R

S

T

V

W

数字

4 製品の仕様

システム仕様

モデル		J3DX4/100CX	J3P54/90CX
CPU		SLエンハンスト486DX4-100MHz	Pentium 90MHz
システムRAM	標準	8MB 5Vタイプ	8MB 3.3Vタイプ
	最大	40MB(16MBRAMカード2枚追加時)	
BIOSROM		128KB フラッシュROM	
ビデオメモリ		1MB 32ビット幅ローカルバス・アクセラレータ付き	
ハードディスク		540MB脱着式	810MB脱着式
フロッピーディスク		3.5インチ3モード 1.44MB/1.2MB/720KB内蔵	
ビデオ	LCD	800×600ドット TFTカラー65,536色 0.28ピッチ RGB一組 10.4インチ冷陰極管バックライト ※DOSモード 640×480ドット	
	CRT	最大1024×768ドット カラー256色(ノンインターレース) LCDと同解像度にて同時表示可能 ※DOSモード 640×480ドット	
インターフェース		シリアルポート(16550タイプUART) パラレルポート 外部CRTポート 外部キーボードポート PCMCIA V2.1 ICカードスロット SPEAKER端子 MIC IN端子 LINE IN端子	
キーボード	仕様	3mmキーストローク メンブレン型	
	キー数	84キー(106キーエミュレーション)	
マウス		キーボード組み込み型スティックポインタ2ボタン式	
サウンド		16ビットステレオデジタルサウンドWINDOWSサウンドシステム互換	
機密保護機能		パスワード設定による保護機能	
パワーセーブ機能		CPUクロックダウン ビデオ表示停止 ハードディスク停止 サスペンド・レジューム機能	ユーザ選択可能
カレンダ・時計・設定		リチウム電池によるバックアップ5年間	
電源	ACアダプタ	入力100V~240V 50・60ヘルツ	
		出力19V 2220mAH	出力19V 2500mAH
	電池	ニッケル水素充電式電池 12V 2800mAH	
寸法		296(W)×216(D)×45(H)	
重量		2.6Kg	

Appendix

システムメモリマップ

FFFFFFFFH FFE00000H	システムBIOS領域
FFDFFFFFH 01600000H	予約領域
027FFFFFH 00800000H	拡張メモリカード増設領域
007FFFFFH 00400000H 003FFFFFH 00100000H	標準実装7MB領域
000FFFFFH 000F8000H	システムBIOS
000FFFFFH 000F0000H	PMプログラム領域
000EFFFFH 000E8000H	PMプログラムデータ領域
000E7FFFH 000E0000H	アッパーメモリ予約エリア
000DFFFFH 000D8000H	アッパーメモリ予約エリア
000D7FFFH 000D0000H	PCMCIA予約エリア
000CFFFFH 000C8000H	PnPBIOS
000C7FFFH 000C0000H	VGA BIOS
0000BFFFFH 0000A0000H	VGAディスプレイメモリ
00009FFFFH 000000000H	メインメモリ640Kバイト

システムI/Oマップ

03F8H~03FFH	COM1シリアルポート(シリアルポート)
03F0H~03F7H	フロッピーディスクコントローラ
03E2H~03EFH	予約領域
03E0H~03E1H	ICカードコントローラ
03C0H~03DFH	ディスプレイコントローラ
03B0H~03BFH	LPT3プリンタポート
0380H~03AFH	予約領域
0370H~037FH	LPT1プリンタポート(プリンタポート)
0300H~036FH	予約領域
02F0H~02FFH	PCMCIAのCOM2用として予約
0280H~02EFH	予約領域
0270H~027FH	LPT2プリンタポート
0230H~026FH	予約領域
0220H~022FH	サウンドチップ
0200H~021FH	予約領域
01F0H~01FFH	ハードディスク
0100H~01EFH	予約領域
00F0H~00FFH	数値演算プロセッサ用予約領域
00E0H~00EFH	予約領域
00C0H~00DFH	DMAコントローラ2
00A0H~00BFH	割り込みコントローラ2
0080H~009FH	DMAページレジスタ
0070H~007FH	リアルタイムクロック･カレンダ･その他
0060H~006FH	キーボードコントローラ
0050H~0053H	予約領域
0040H~004FH	タイマーコントローラ
0030H~003FH	予約領域
0020H~002FH	割り込みコントローラ1
0010H~001FH	予約領域
0000H~000FH	DMAコントローラ1

( )内はデフォルト設定の割り当てを示します。



SOTEC